

別添

# 台東区障害者実態調査 報告書 【概要版】

令和4年12月

台東区



# 目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 調査票回収数及び回収率	1
3. 報告書の見方	2
(1) 百分率について	2
(2) 単純集計及び分析について	2
(3) クロス集計及び分析について	2
(4) 令和元年度調査との比較について	2
第2章 調査の結果	3
I 障害者	3
1. 基本的属性	3
(1) 年齢	3
(2) 障害の種類	4
2. 暮らし方について	5
(1) 現在の暮らし方	5
(2) 将来希望する暮らし方	6
3. 日常の生活について	7
(1) 現在の日中の過ごし方	7
(2) 希望する日中の過ごし方	8
4. 仕事について	9
(1) 就労状況	9
(2) 希望する働き方	10
5. コミュニケーション・意思疎通について	11
(1) 充実を希望する情報媒体	11
6. 障害福祉サービスについて	12
(1) 障害福祉サービスの利用状況	12
(2) 今後、充実を希望するサービス	13

7. 医療的ケアについて .....	14
(1) 医療的ケアに関し充実が必要な支援 .....	14
8. 障害者の権利擁護、虐待、差別について .....	15
(1) 成年後見制度の認知度 .....	15
(2) 障害者虐待防止法の認知度 .....	16
(3) 障害者差別解消法の認知度 .....	17
9. 災害・緊急時のことについて .....	18
(1) 災害時の困難・不安 .....	18
10. 新型コロナウイルス感染症について .....	19
(1) 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの .....	19
11. 台東区への要望等について .....	20
(1) 障害者が地域で安心して暮らすために重要と思う施策 .....	20
II 障害児 .....	21
1. 基本的属性 .....	21
(1) 年齢 .....	21
(2) 障害の種類 .....	22
2. 暮らし方について .....	23
(1) 将来希望する暮らし方 .....	23
3. 日常の生活について .....	24
(1) 生活の支援者 .....	24
4. 生活を支援している方の仕事について .....	25
(1) 支援者の就業状況 .....	25
5. 療育・教育について .....	26
(1) 日中の活動の場 .....	26
(2) 放課後の過ごし方 .....	28
(3) 育児における悩みや不安 .....	29
6. コミュニケーション・意思疎通について .....	30
(1) 充実を希望する情報媒体 .....	30
7. 障害福祉サービスについて .....	31
(1) 今後、充実を希望するサービス .....	31
8. 障害者の権利擁護、虐待、差別について .....	32
(1) 障害者虐待防止法の認知度 .....	32
(2) 障害者差別解消法の認知度 .....	33
9. 新型コロナウイルス感染症について .....	34
(1) 新型コロナウイルス感染症に関し行政に求めるもの .....	34
10. 台東区への要望等について .....	35
(1) 障害児が地域で安心して暮らすために重要と思う施策 .....	35

# 第1章 調査の概要

## 1. 調査目的

本調査は、障害者（児）の生活実態及び要望等を把握し、「第7期台東区障害福祉計画」（令和6年度～令和8年度）を策定するための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査概要

### (1) 調査対象

障害者（18歳以上）1,100件

障害児（18歳未満）100件 ※今回から新たに障害児に特化した調査票を作成

(内訳)

区分	対象	抽出方法	対象者数
身体障害者	①身体障害者手帳所持者	無作為抽出	600人
知的障害者	②愛の手帳（療育手帳）所持者	無作為抽出	100人
精神障害者	③精神障害者保健福祉手帳所持者	無作為抽出	200人
難病患者等	④難病医療費等助成の受給者	無作為抽出	200人
障害児等	上記①～④または障害児通所支援利用者	無作為抽出	100人
合計			1,200人

### (2) 調査方法

配布：郵送配布

回答：郵送、訪問またはインターネット回答（全て無記名回答）

### (3) 調査期間

令和4年9月1日（木）～令和4年10月2日（日）

### (4) 調査票回収数及び回収率

A:対象者数	B:回収数	C:回収率 ( $B/A \times 100$ )
障害者：1,100人	594人	54.0%
障害児：100人	65人	65.0%
合計：1,200人	659人	54.9%

### 3. 報告書の見方

#### (1) 百分率について

調査結果の比率は、その設問の回答数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合がある。

#### (2) 単純集計及び分析について

設問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述している。

#### (3) クロス集計及び分析について

設問の回答者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、障害別等を分析の柱とするクロス集計表を掲載し、分析を行っている。

クロス集計表においては、障害別は複数回答項目であり、また障害の種別で「無回答」は含んでいないため、分析軸（縦軸）の回答者数の合計値と「全体」の数値は一致しない。

また、特定の選択肢を選んだ回答者だけに質問するなどの質問の流れによっては、質問の回答者数が少なくなる場合がある。回答者が30人未満の場合、有効な分析をする回答者数を満たしているとは言えないが、参考として図表並びに分析を掲載している。

障害児のクロス集計の障害別の区分は、身体障害者手帳、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを持っていると回答した方（問3）の障害の種類（問3-2）を基に集計している。

障害児の年齢別クロス集計における、年齢層の区分は以下のように定めている。

（未就学児：0～5歳、就学期：6～11歳、中高生：12～17歳）

※クロス集計・・・障害別の調査回答者など、2つの項目に着目してデータの集計や分析を行うこと。

#### (4) 令和元年度調査との比較について

令和元年度に実施した障害者実態調査（以下、「令和元年度調査」という。）は、障害者・障害児に対する調査を1つの調査票で実施した。令和4年度に実施した障害者実態調査（以下、「令和4年度調査」という。）は、より詳細な実態把握のため、障害者・障害児それぞれで調査票を作成し、実施した。

このため、令和元年度調査が全年齢層を調査対象者としているのに対し、令和4年度調査の「障害者」調査票は18歳以上を調査対象者としているという点で対象年齢に一部差異があるが、参考値として令和元年度調査の結果を掲載する。

## 第2章 調査の結果

### I 障害者

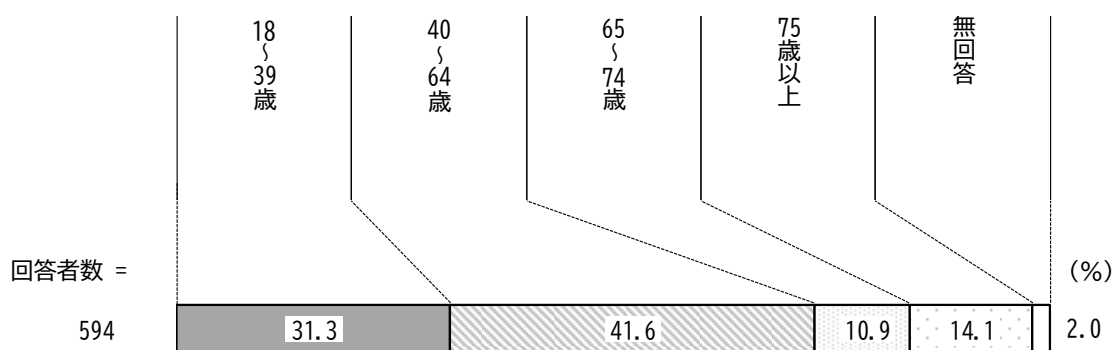
#### 1. 基本的属性

##### (1) 年齢

年齢は、「40～64歳」が41.6%と最も高く、次いで「18～39歳」が31.3%、「75歳以上」が14.1%となっている。

障害別にみると、発達障害で「18～39歳」が72.2%と最も高くなっている。

<図表 I-1-1 年齢（全体）>



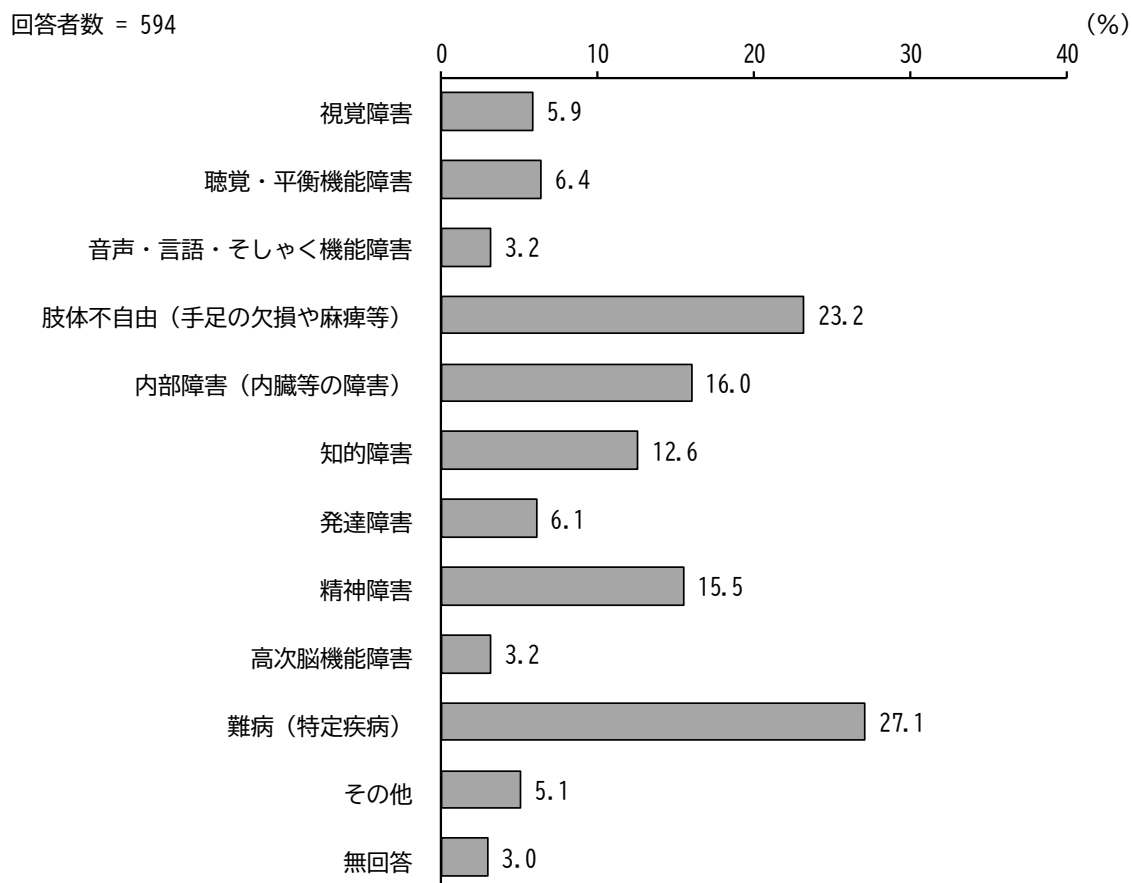
<図表 I-1-2 年齢（障害別）>

区分	回答者数 (件)	18～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
全体	594	31.3	41.6	10.9	14.1	2.0
身体障害	286	29.0	42.3	11.2	16.1	1.4
知的障害	75	45.3	36.0	13.3	2.7	2.7
精神障害	92	27.2	48.9	19.6	4.3	-
難病（特定疾病）	161	32.3	41.0	8.7	16.8	1.2
高次脳機能障害	19	36.8	42.1	5.3	15.8	-
発達障害	36	72.2	22.2	5.6	-	-
その他	30	20.0	36.7	6.7	36.7	-

## (2) 障害の種類

障害の種類は、「難病（特定疾病）」が27.1%と最も高く、次いで「肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）」が23.2%、「内部障害（内臓等の障害）」が16.0%となっている。

<図表 I - 2 - 1 障害の種類（全体）>





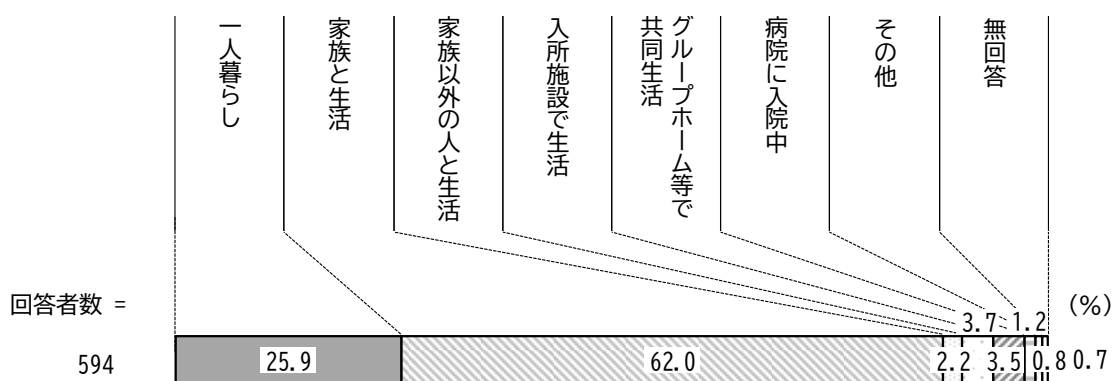
## 2. 暮らし方について

### (1) 現在の暮らし方

現在の暮らし方は、「家族と生活」が62.0%と最も高く、次いで「一人暮らし」が25.9%となっている。

障害別にみると、知的障害で「入所施設で生活」、「グループホーム等で共同生活」が比較的高くなっている。

<図表 I-3-1 暮らし方 (全体) >



<図表 I-3-2 暮らし方 (障害別) >

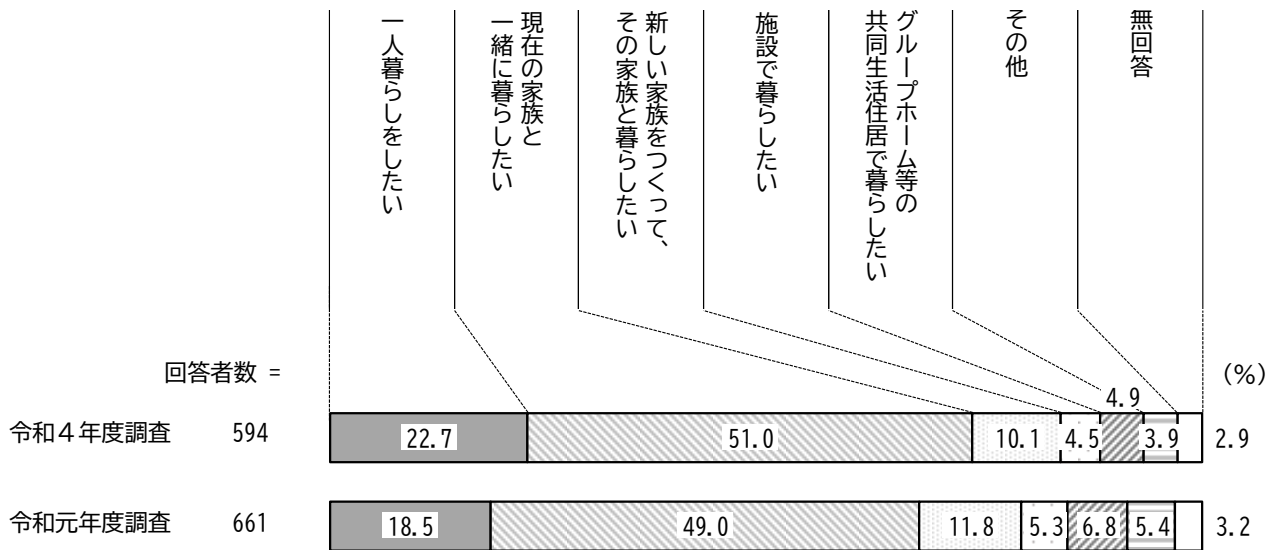
区分	回答者数 (件)	一人暮らし	家族と生活	家族以外の人と生活	入所施設で生活	グループホーム等で共同生活	病院に入院中	その他	無回答
全体	594	25.9	62.0	2.2	3.7	3.5	1.2	0.8	0.7
身体障害	286	27.3	63.3	2.4	3.5	1.7	1.0	0.7	-
知的障害	75	5.3	45.3	1.3	20.0	24.0	-	2.7	1.3
精神障害	92	34.8	56.5	2.2	2.2	1.1	-	1.1	2.2
難病 (特定疾病)	161	26.7	65.2	2.5	1.9	1.2	1.2	0.6	0.6
高次脳機能障害	19	15.8	57.9	-	15.8	-	10.5	-	-
発達障害	36	33.3	50.0	2.8	8.3	5.6	-	-	-
その他	30	26.7	56.7	-	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3

## (2) 将来希望する暮らし方

将来希望する暮らし方は、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が51.0%と最も高く、次いで「一人暮らしをしたい」が22.7%、「新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい」が10.1%となっている。

障害別にみると、知的障害で「施設で暮らしたい」、「グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」が比較的高くなっている。

<図表 I - 4 - 1 将来望む暮らし方 (全体) >



<図表 I - 4 - 2 将来望む暮らし方 (障害別) > (%)

区分	回答者数 (件)	一人暮らしをしたい (%)	現在の家族と一緒に暮らしたい (%)	新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい (%)	施設で暮らしたい (%)	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	594	22.7	51.0	10.1	4.5	4.9	3.9	2.9
身体障害	286	23.4	54.5	8.7	3.5	4.5	2.4	2.8
知的障害	75	17.3	32.0	1.3	16.0	24.0	4.0	5.3
精神障害	92	37.0	37.0	13.0	4.3	-	6.5	2.2
難病 (特定疾病)	161	16.8	59.0	11.8	4.3	3.1	2.5	2.5
高次脳機能障害	19	10.5	57.9	10.5	-	-	-	21.1
発達障害	36	36.1	19.4	22.2	8.3	2.8	5.6	5.6
その他	30	26.7	53.3	3.3	3.3	3.3	10.0	-

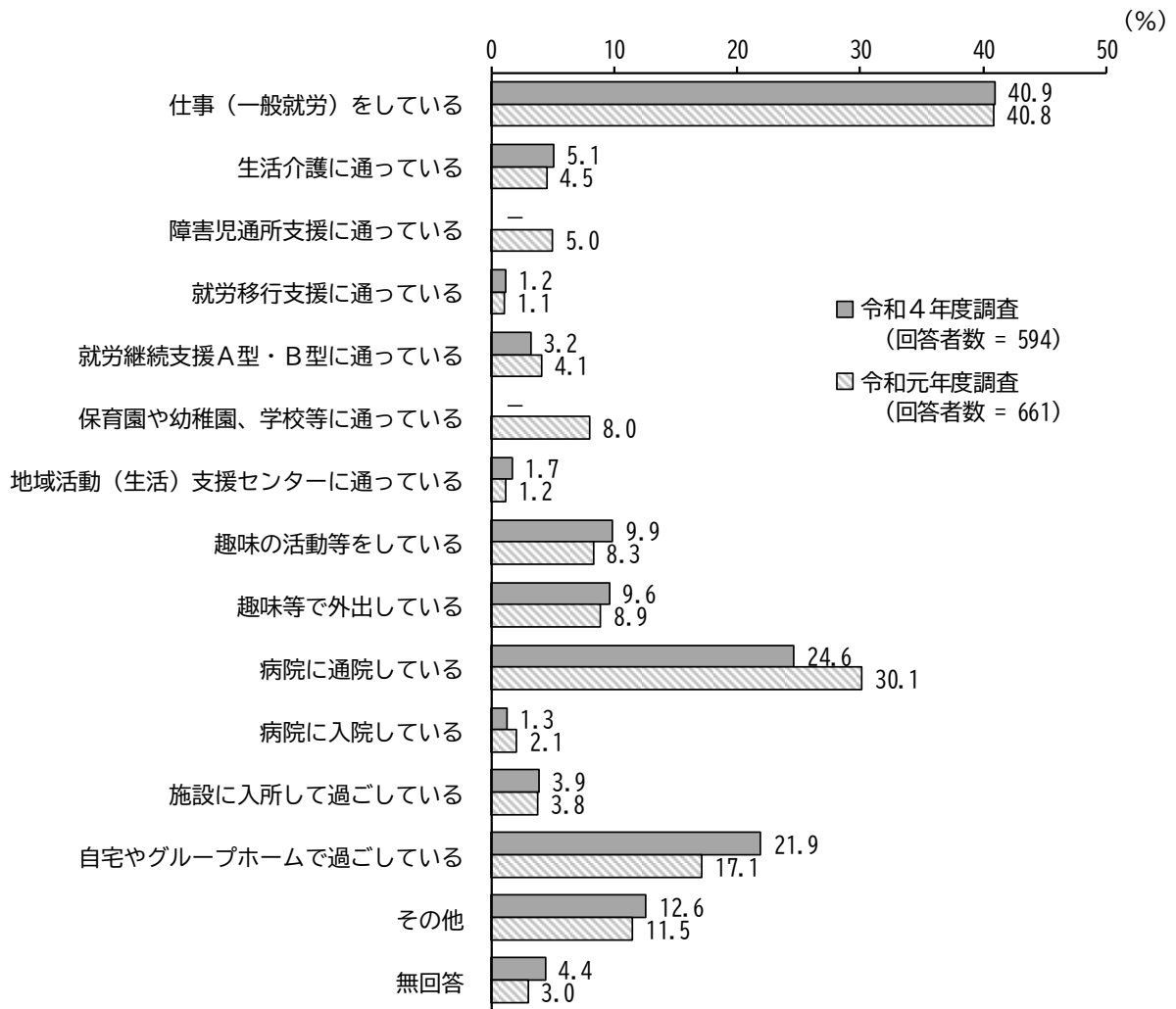
### 3. 日常生活について

#### (1) 現在の日中の過ごし方

現在の日中の過ごし方は、「仕事（一般就労）をしている」が40.9%と最も高く、次いで「病院に通院している」が24.6%、「自宅やグループホームで過ごしている」が21.9%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「病院に通院している」の割合が減少し、「自宅やグループホームで過ごしている」の割合が増加している。

<図表 I - 5 - 1 現在の平日日中の過ごし方（全体）>



※項目比較

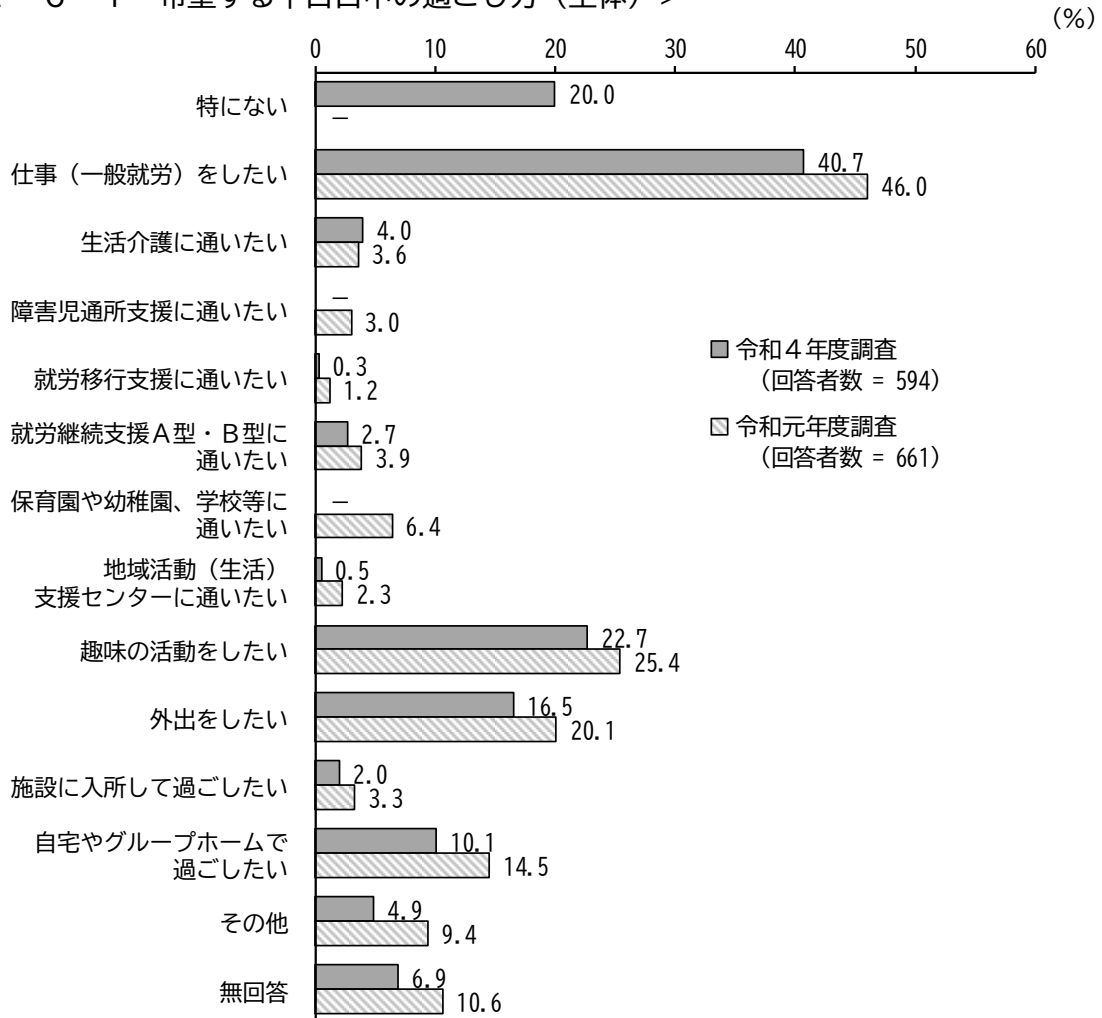
令和4年度調査	令和元年度調査
—	障害児通所支援に通っている
—	保育園や幼稚園、学校等に通っている

## (2) 希望する日中の過ごし方

希望する平日日中の過ごし方は、「仕事（一般就労）をしたい」が40.7%と最も高く、次いで「趣味の活動をしたい」が22.7%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「仕事（一般就労）をしたい」の割合が減少している。

<図表 I - 6 - 1 希望する平日日中の過ごし方（全体）>



※項目比較

令和4年度調査	令和元年度調査
—	障害児通所支援に通いたい
—	保育園や幼稚園、学校等に通いたい
特にない	—
外出をしたい	外出等をしたい

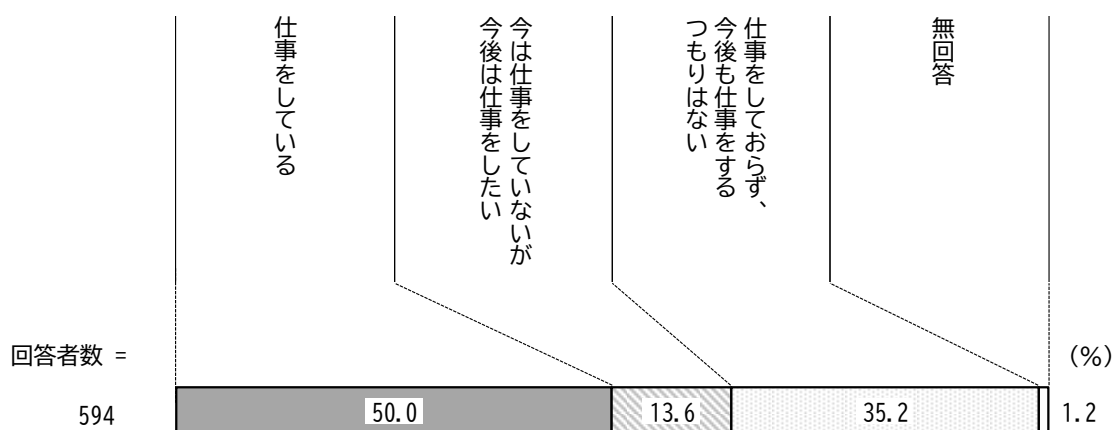
## 4. 仕事について

### (1) 就労状況

現在の就労状況は、「仕事をしている」が 50.0%と最も高く、次いで「仕事をしておらず、今後も仕事をするつもりはない」が 35.2%、「今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい」が 13.6%となっている。

障害別にみると、知的障害、難病（特定疾病）、発達障害で「仕事をしている」が 50%を超えて高く、精神障害で「今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい」が 27.2%と高くなっている。

<図表 I - 7 - 1 現在の就労状況（全体）>



<図表 I - 7 - 2 現在の就労状況（障害別）> (%)

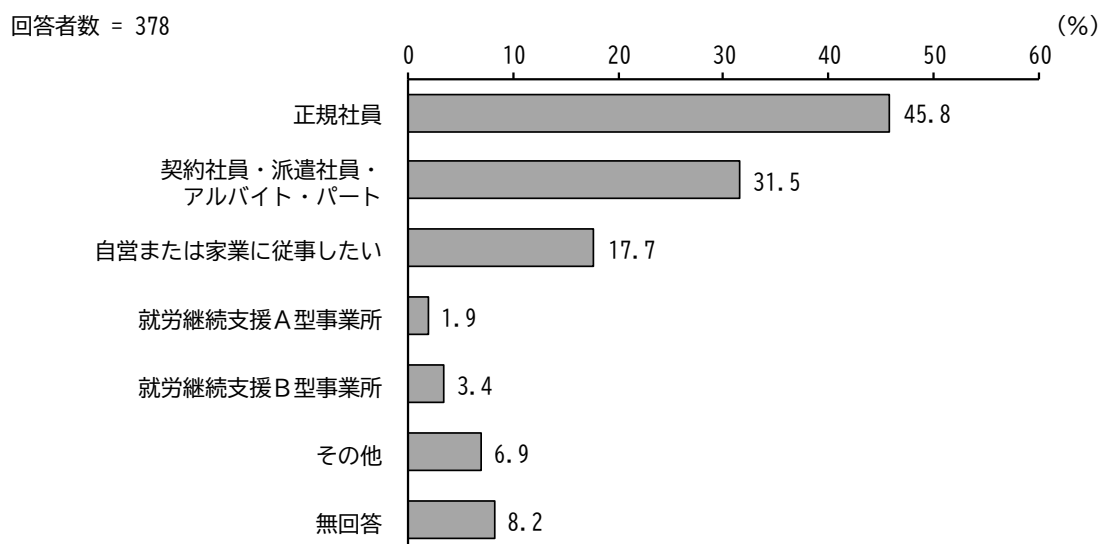
区分	回答者数 (件)	仕事をしている	今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい	仕事をしておらず、今後も仕事をするつもりはない	無回答
全体	594	50.0	13.6	35.2	1.2
身体障害	286	49.3	13.3	37.1	0.3
知的障害	75	52.0	4.0	44.0	-
精神障害	92	32.6	27.2	37.0	3.3
難病（特定疾病）	161	55.9	8.1	35.4	0.6
高次脳機能障害	19	31.6	15.8	47.4	5.3
発達障害	36	55.6	19.4	25.0	-
その他	30	33.3	16.7	46.7	3.3

## (2) 希望する働き方

希望する働き方は、「正規社員」が45.8%と最も高く、次いで「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が31.5%、「自営または家業に従事したい」が17.7%となっている。

障害別にみると、身体障害、難病（特定疾病）で「正規社員」がそれぞれ49.7%、54.4%と高くなっている。また、知的障害で「就労継続支援B型事業所」が28.6%、精神障害、発達障害で「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」がそれぞれ47.3%、44.4%と高くなっている。

<図表 I - 8 - 1 希望する働き方（全体）>



<図表 I - 8 - 2 希望する働き方（障害別）> (%)

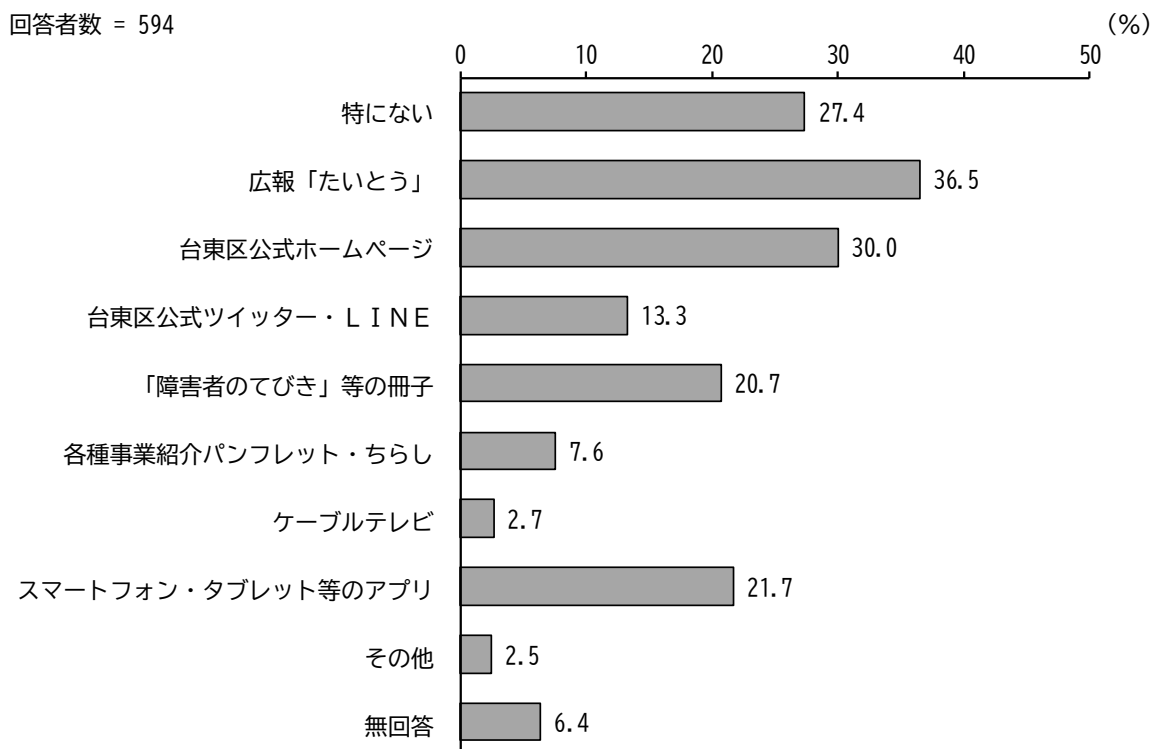
区分	回答者数 (件)	正規社員	パート 契約社員・派遣社 員・アルバイト・	自営または家業に 従事したい	就労継続支援A型 事業所	就労継続支援B型 事業所	その他	無回答
全体	378	45.8	31.5	17.7	1.9	3.4	6.9	8.2
身体障害	179	49.7	29.1	17.3	-	1.1	6.7	6.7
知的障害	42	19.0	14.3	2.4	7.1	28.6	7.1	26.2
精神障害	55	41.8	47.3	21.8	5.5	1.8	9.1	5.5
難病（特定疾病）	103	54.4	31.1	18.4	-	-	4.9	5.8
高次脳機能障害	9	22.2	22.2	44.4	-	-	22.2	11.1
発達障害	27	40.7	44.4	11.1	11.1	7.4	3.7	11.1
その他	15	26.7	46.7	26.7	-	-	20.0	-

## 5. コミュニケーション・意思疎通について

### (1) 充実を希望する情報媒体

充実を希望する情報媒体は、「広報『たいとう』」が36.5%と最も高く、次いで「台東区公式ホームページ」が30.0%となっている。

<図表 I - 9 - 1 充実を希望する情報媒体（全体）>



<図表 I - 9 - 2 充実を希望する情報媒体（障害別）>

区分	回答者数 (件)	特にない	広報「たいとう」	台東区公式ホームページ	LINE 台東区公式ツイッター・LINE	冊子 「障害者のてびき」等の	各種事業紹介 パンフレット・ちらし	ケーブルテレビ	スマートフォン・ タブレット等のアプリ	その他	無回答
全体	594	27.4	36.5	30.0	13.3	20.7	7.6	2.7	21.7	2.5	6.4
身体障害	286	26.2	40.6	30.4	10.5	26.6	5.6	3.1	21.3	2.4	5.6
知的障害	75	38.7	33.3	16.0	8.0	25.3	10.7	-	13.3	4.0	13.3
精神障害	92	19.6	38.0	38.0	12.0	23.9	13.0	3.3	26.1	4.3	4.3
難病（特定疾病）	161	24.8	37.3	34.8	21.1	18.0	8.1	2.5	24.2	1.9	4.3
高次脳機能障害	19	15.8	15.8	10.5	5.3	31.6	-	5.3	15.8	5.3	21.1
発達障害	36	16.7	55.6	33.3	16.7	25.0	8.3	-	16.7	5.6	-
その他	30	33.3	33.3	26.7	3.3	13.3	3.3	-	13.3	3.3	10.0

## 6. 障害福祉サービスについて

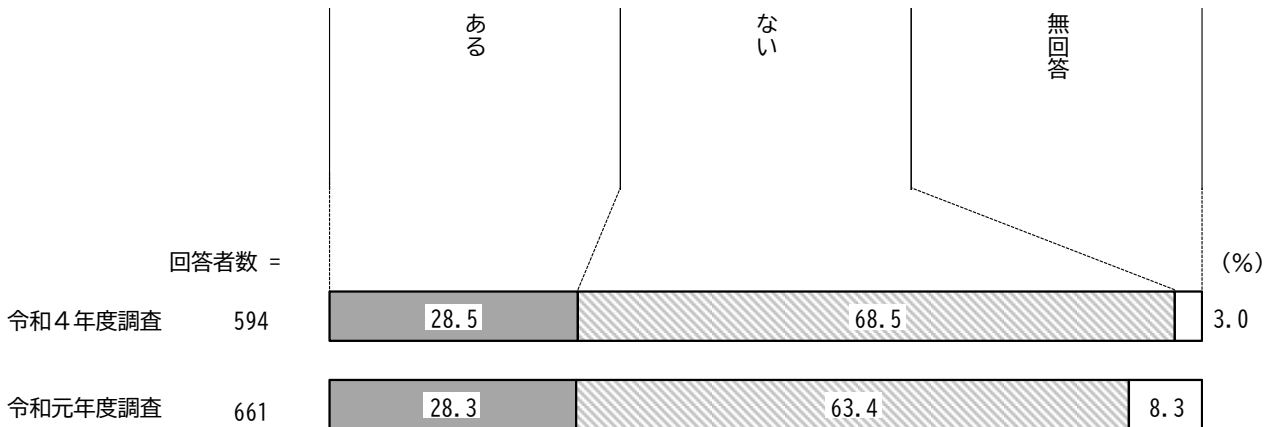
### (1) 障害福祉サービスの利用状況

障害福祉サービスの利用状況は、「ある」が28.5%、「ない」が68.5%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加している。

障害別にみると、知的障害で「ある」が77.3%と高くなっている一方、身体障害、難病（特定疾病）は「ない」が70%を超えている。

<図表 I - 10 - 1 障害福祉サービスの利用状況（全体）>



<図表 I - 10 - 2 障害福祉サービスの利用状況（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	ある (%)	ない (%)	無回答 (%)
全体	594	28.5	68.5	3.0
身体障害	286	25.2	71.7	3.1
知的障害	75	77.3	20.0	2.7
精神障害	92	34.8	64.1	1.1
難病（特定疾病）	161	18.6	79.5	1.9
高次脳機能障害	19	36.8	52.6	10.5
発達障害	36	55.6	41.7	2.8
その他	30	30.0	70.0	-

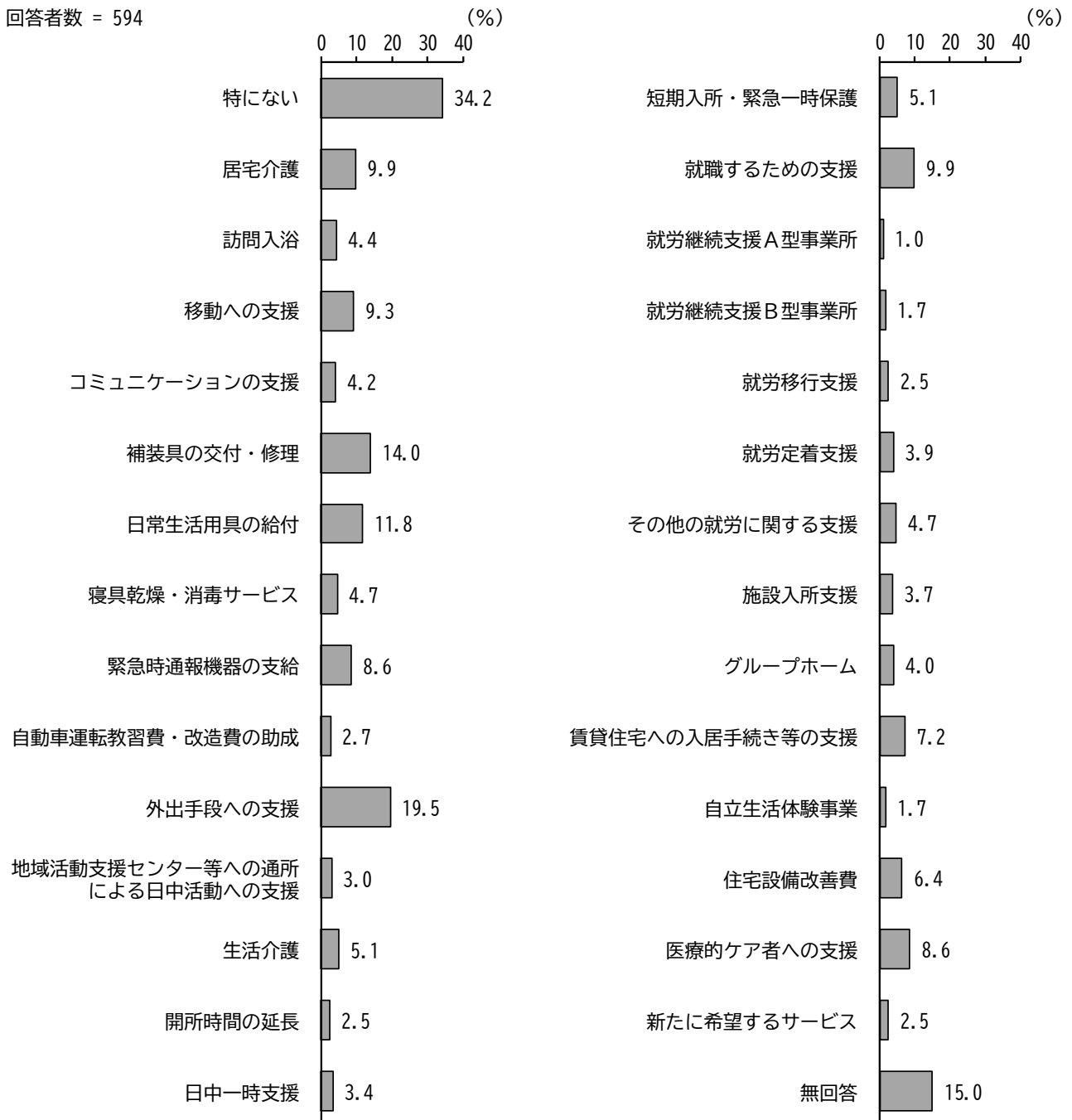


## (2) 今後、充実を希望するサービス

今後、充実を希望するサービスがある割合は、50.8%（全体から「特にない」34.2%と「無回答」15.0%を除いたもの）となっている。具体的には、「外出手段への支援」が19.5%、「補装具の交付・修理」が14.0%、「日常生活用具の給付」が11.8%と高くなっている。

<図表 I-11-1 今後、充実を希望するサービス（全体）>

回答者数 = 594

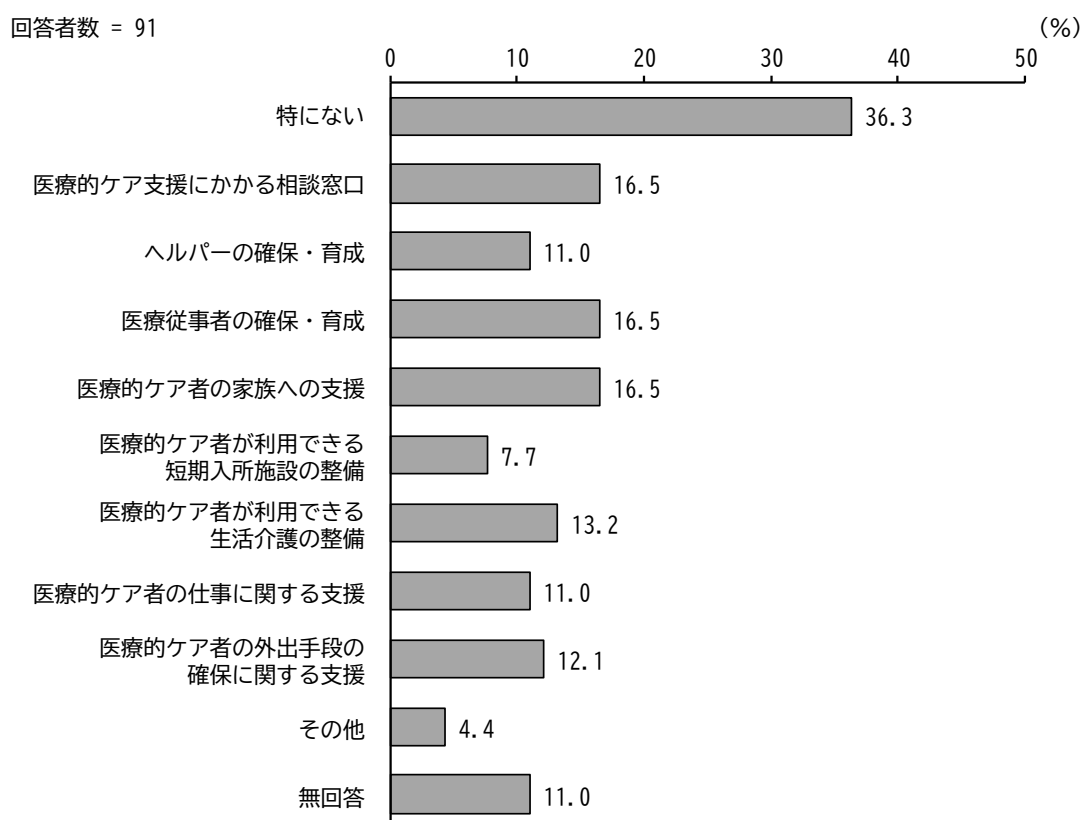


## 7. 医療的ケアについて

### (1) 医療的ケアに関し充実が必要な支援

医療的ケアを必要としている人が充実を希望する支援は、「医療的ケア支援にかかる相談窓口」、「医療従事者の確保・育成」、「医療的ケア者の家族への支援」が16.5%、「医療的ケア者が利用できる生活介護の整備」が13.2%、「医療的ケア者の外出手段の確保に関する支援」が12.1%となっている。

<図表 I -12-1 医療的ケアの充実に必要な支援（全体）>



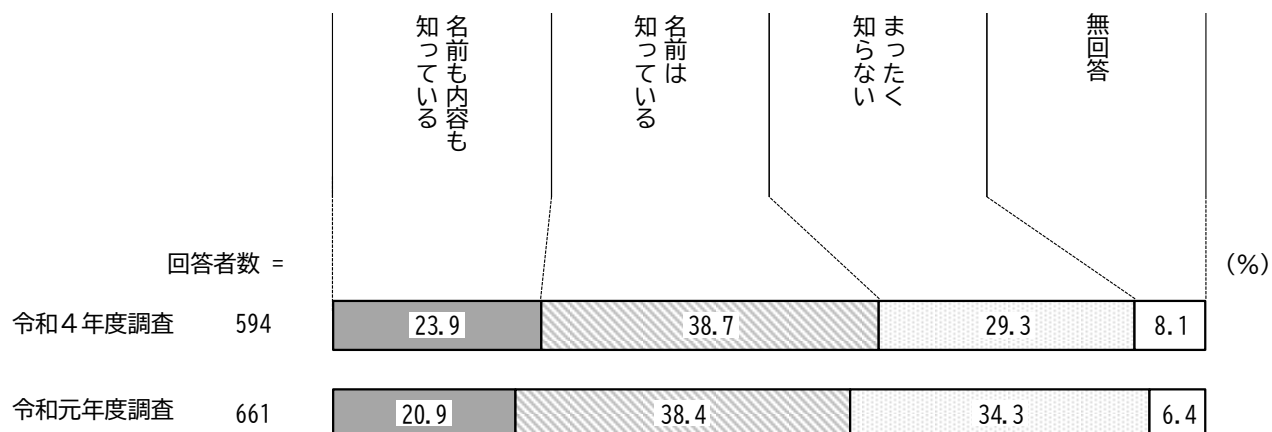
## 8. 障害者の権利擁護、虐待、差別について

### (1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度は、「名前も内容も知っている」23.9%と「名前は知っている」38.7%をあわせた『知っている』は62.6%となっている。

障害別にみると、高次脳機能障害で『知っている』は57.9%と低くなっている。

<図表 I - 13 - 1 成年後見制度の認知度（全体）>



<図表 I - 13 - 2 成年後見制度の認知度（障害別）> (%)

区分	回答者数(件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	594	23.9	38.7	29.3	8.1
身体障害	286	28.0	38.5	26.6	7.0
知的障害	75	22.7	42.7	22.7	12.0
精神障害	92	22.8	41.3	32.6	3.3
難病（特定疾病）	161	26.1	40.4	28.6	5.0
高次脳機能障害	19	26.3	31.6	26.3	15.8
発達障害	36	27.8	47.2	25.0	-
その他	30	16.7	23.3	53.3	6.7

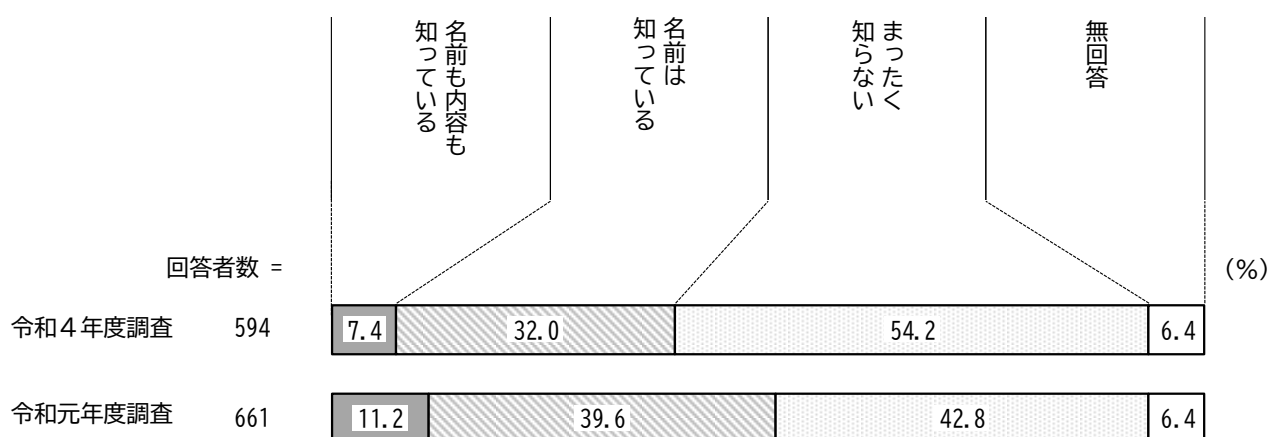
## (2) 障害者虐待防止法の認知度

障害者虐待防止法の認知度は、「名前も内容も知っている」7.4%と「名前は知っている」32.0%をあわせた『知っている』が39.4%となっている。

令和元年度調査と比較すると、『知っている』割合が減少している。

障害別にみると、身体障害と発達障害で『知っている』が50.0%と高くなっている。

<図表 I - 14 - 1 障害者虐待防止法の認知度（全体）>



<図表 I - 14 - 2 障害者虐待防止法の認知度（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	594	7.4	32.0	54.2	6.4
身体障害	286	12.2	37.8	44.4	5.6
知的障害	75	6.7	41.3	42.7	9.3
精神障害	92	6.5	27.2	62.0	4.3
難病（特定疾病）	161	3.7	27.3	65.8	3.1
高次脳機能障害	19	-	36.8	52.6	10.5
発達障害	36	13.9	36.1	47.2	2.8
その他	30	3.3	10.0	83.3	3.3

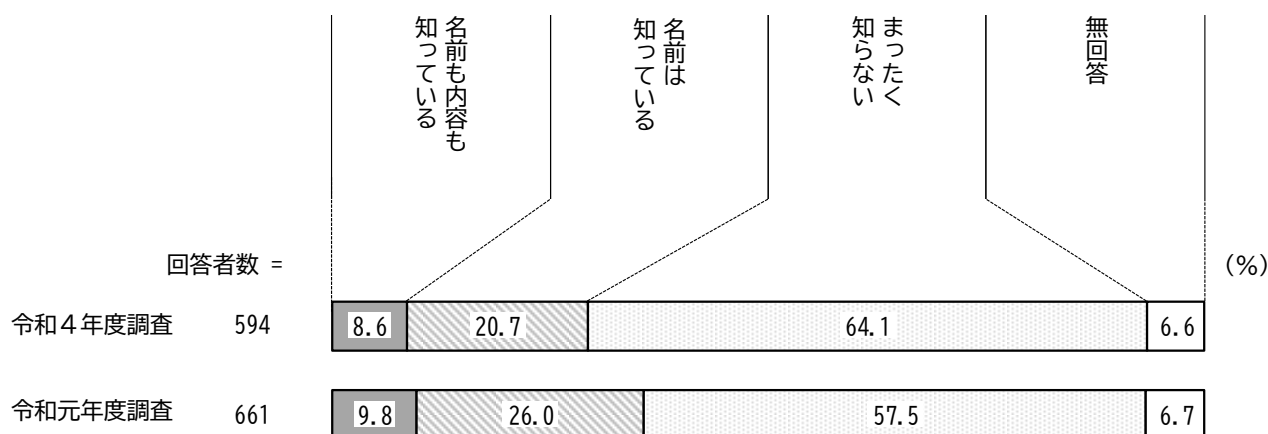
### (3) 障害者差別解消法の認知度

障害者差別解消法の認知度は、「名前も内容も知っている」8.6%と「名前は知っている」20.7%をあわせた『知っている』が29.3%となっている。

令和元年度調査と比較すると、『知っている』の割合が減少している。

障害別にみると、発達障害で『知っている』が50.0%と高くなっている。

<図表 I - 15 - 1 障害者差別解消法の認知度（全体）>



<図表 I - 15 - 2 障害者差別解消法の認知度（障害別）> (%)

区分	回答者数(件)	名前も内容も知っている	名前は知っている	まったく知らない	無回答
全体	594	8.6	20.7	64.1	6.6
身体障害	286	12.6	23.4	58.7	5.2
知的障害	75	8.0	21.3	60.0	10.7
精神障害	92	8.7	15.2	71.7	4.3
難病（特定疾病）	161	6.2	20.5	68.9	4.3
高次脳機能障害	19	-	15.8	68.4	15.8
発達障害	36	19.4	30.6	47.2	2.8
その他	30	-	13.3	80.0	6.7

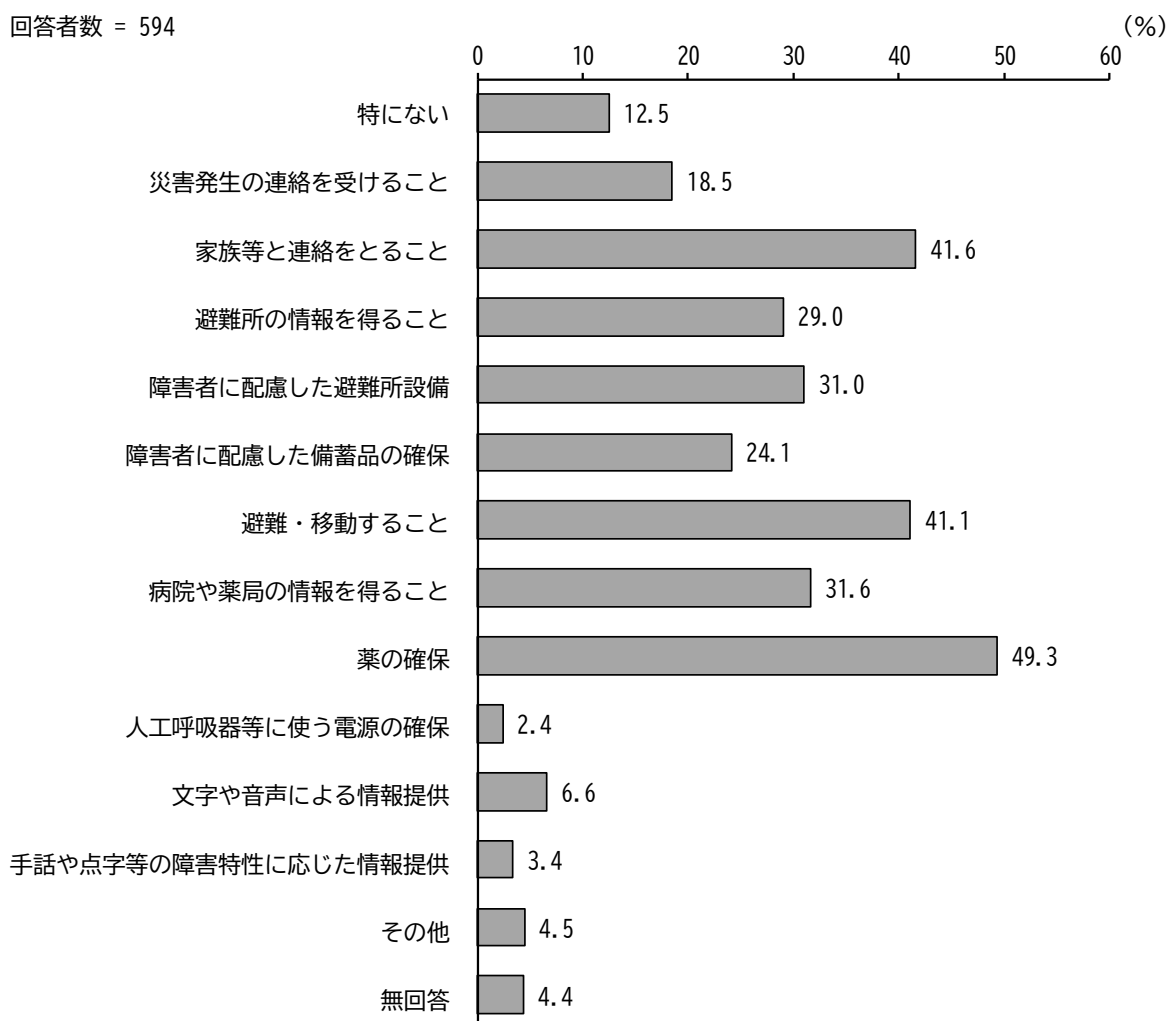
## 9. 災害・緊急時のことについて

### (1) 災害時の困難・不安

災害時に困ること・不安に思うことは、「薬の確保」が49.3%と最も高く、次いで「家族等と連絡をとること」が41.6%、「避難・移動すること」が41.1%となっている。

<図表 I-16-1 災害時に困ること・不安に思うこと（全体）>

回答者数 = 594

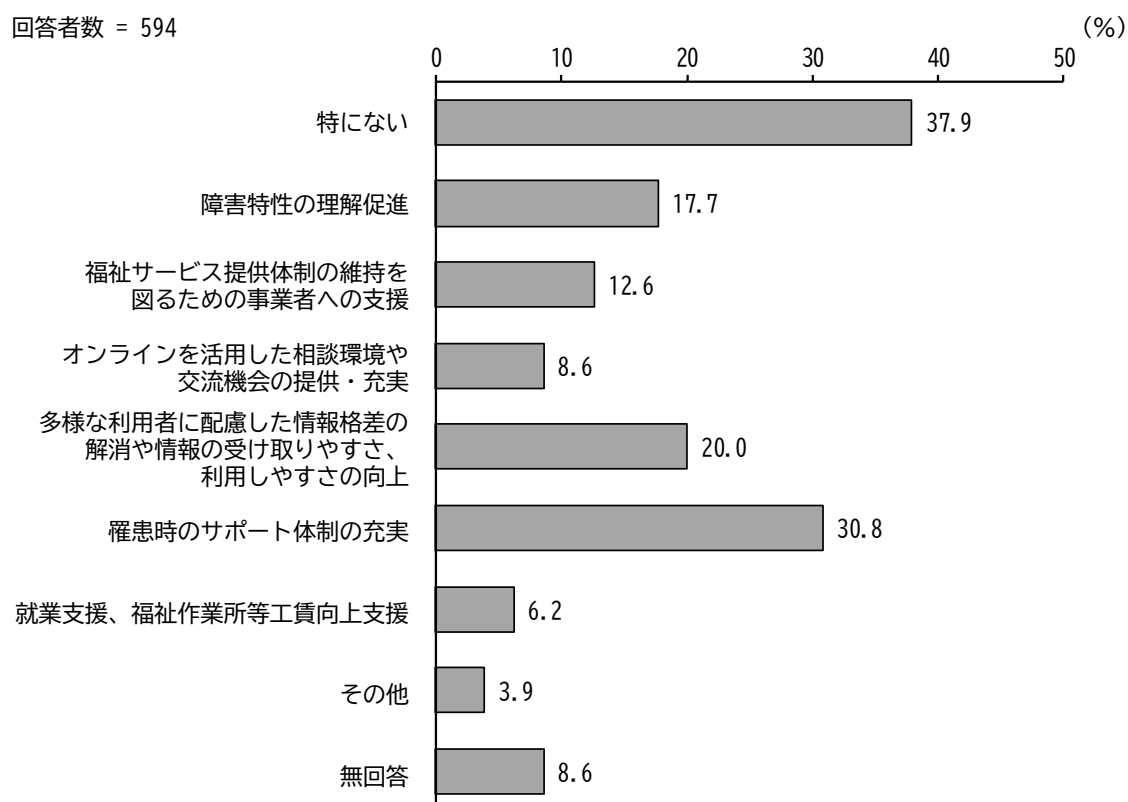


## 10. 新型コロナウイルス感染症について

### (1) 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの

新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるものは、「罹患時のサポート体制の充実」が30.8%と最も高く、次いで「多様な利用者に配慮した情報格差の解消や情報の受け取りやすさ、利用しやすさの向上」が20.0%となっている。

<図表 I-17-1 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの（全体）>

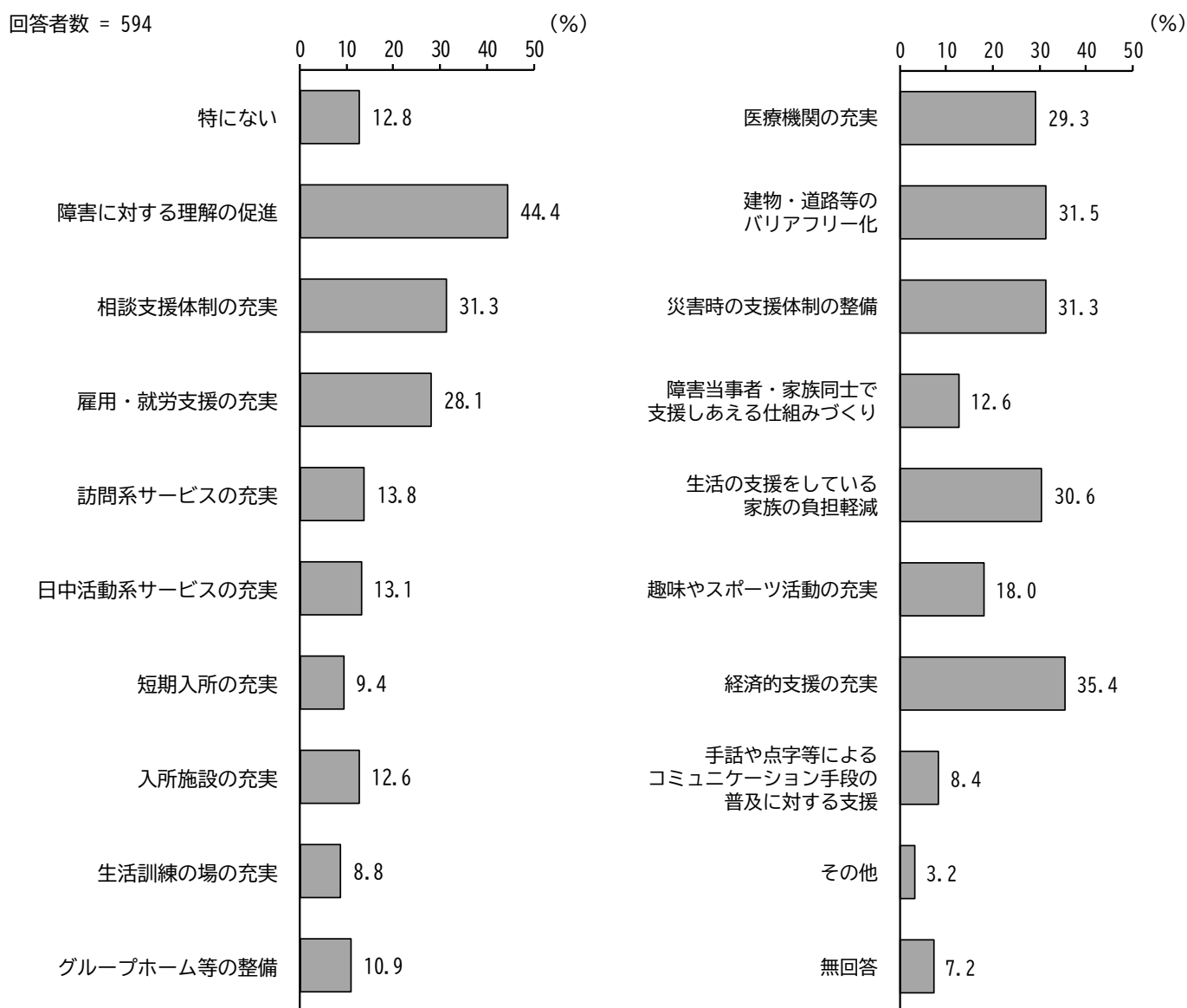


## 11. 台東区への要望等について

### (1) 障害者が地域で安心して暮らすために重要と思う施策

障害者が地域で安心して暮らすために重要と思う施策は、「障害に対する理解の促進」が44.4%と最も高く、次いで「経済的支援の充実」が35.4%、「建物・道路等のバリアフリー化」が31.5%となっている。

<図表 I-18-1 障害者が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（全体）>





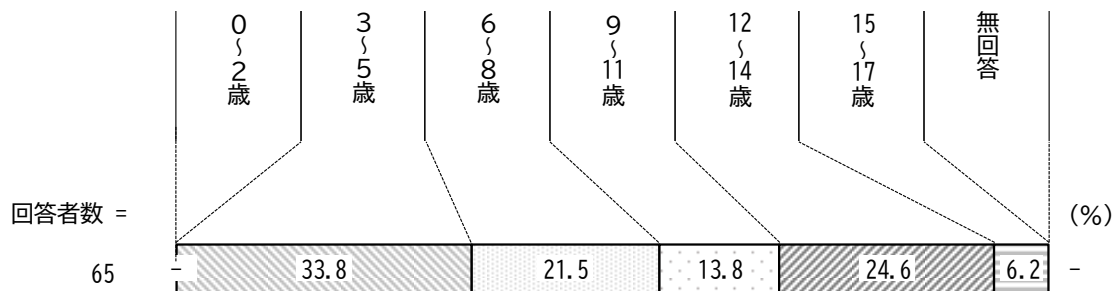
## II 障害児

### 1. 基本的属性

#### (1) 年齢

年齢は、「3～5歳」が33.8%と最も高く、次いで「12～14歳」が24.6%、「6～8歳」が21.5%となっている。

<図表Ⅱ-1-1 年齢（全体）>



<図表Ⅱ-1-2 年齢（障害別）>

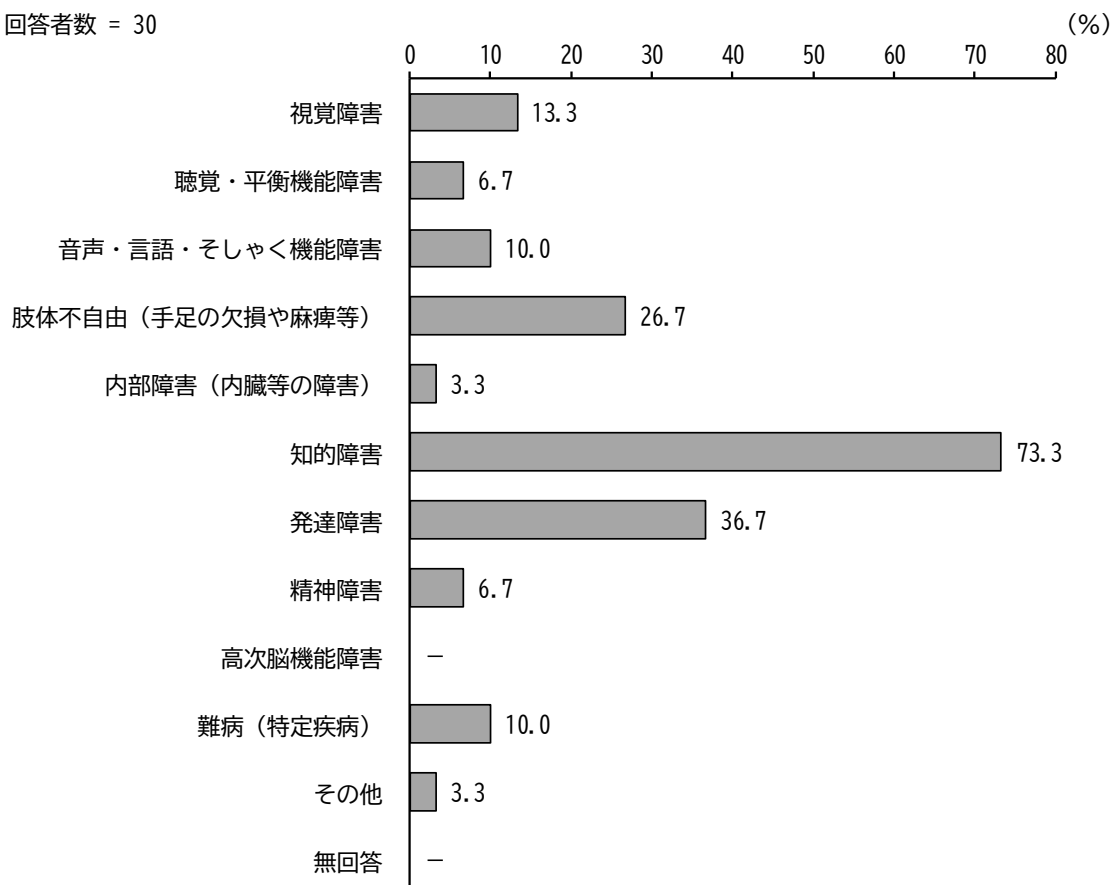
区分	回答者数 (件)	年齢 (%)			
		未就学児	就学期	中高生	無回答
全体	65	33.8	35.4	30.8	-
身体障害	13	30.8	38.5	30.8	-
知的障害	22	9.1	50.0	40.9	-
精神障害	2	-	50.0	50.0	-
難病（特定疾病）	3	-	-	100.0	-
発達障害	11	-	45.5	54.5	-
手帳未取得	31	48.4	38.7	12.9	-

## (2) 障害の種類

障害の種類は、「知的障害」が73.3%と最も高く、次いで「発達障害」が36.7%、「肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）」が26.7%となっている。

<図表Ⅱ-2-1 障害の種類（全体）>

回答者数 = 30



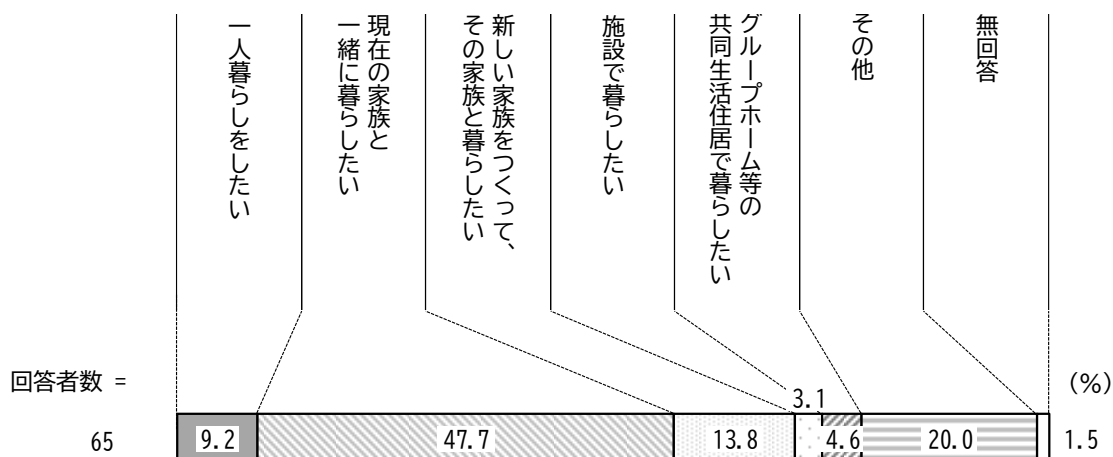
## 2. 暮らし方について

### (1) 将来希望する暮らし方

将来希望する暮らし方は、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が47.7%と最も高く、次いで「新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい」が13.8%となっている。

障害別にみると、発達障害で「現在の家族と一緒に暮らしたい」が63.6%と高くなっている。

<図表Ⅱ-3-1 将来希望する暮らし方（全体）>



<図表Ⅱ-3-2 将来希望する暮らし方（障害別）>

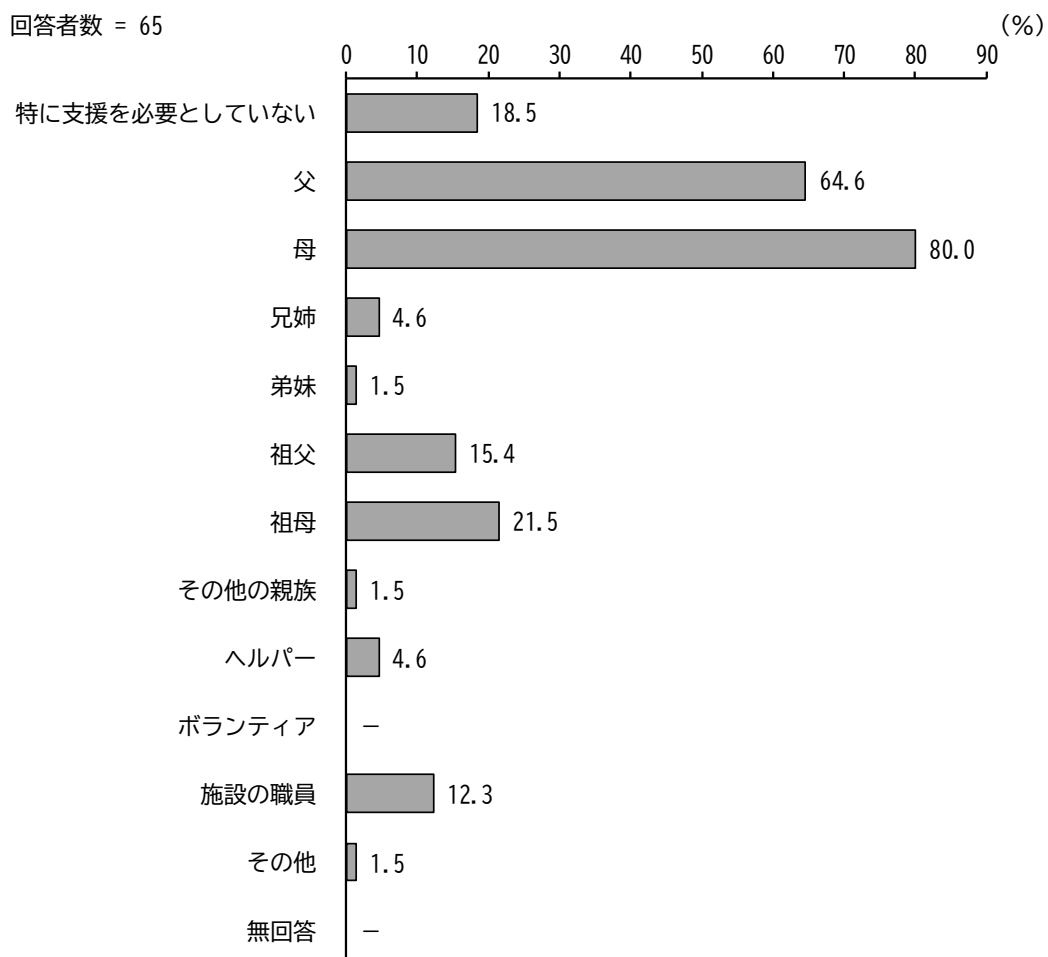
区分	回答者数 (件)	一人暮らしをしたい	現在の家族と一緒に暮らしたい	新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい	施設で暮らしたい	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい	その他	無回答
全体	65	9.2	47.7	13.8	3.1	4.6	20.0	1.5
身体障害	13	7.7	53.8	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7
知的障害	22	4.5	45.5	9.1	9.1	13.6	18.2	-
精神障害	2	-	100.0	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	-
発達障害	11	-	63.6	-	9.1	18.2	9.1	-
手帳未取得	31	9.7	41.9	19.4	-	-	29.0	-

### 3. 日常の生活について

#### (1) 生活の支援者

生活の支援の状況について、支援が必要な割合は、81.5%（全体から「特に支援を必要としない」18.5%を除いたもの）となっている。具体的な支援者は、「母」が80.0%、「父」が64.6%となっている。

<図表Ⅱ－4－1 支援の状況（全体）>

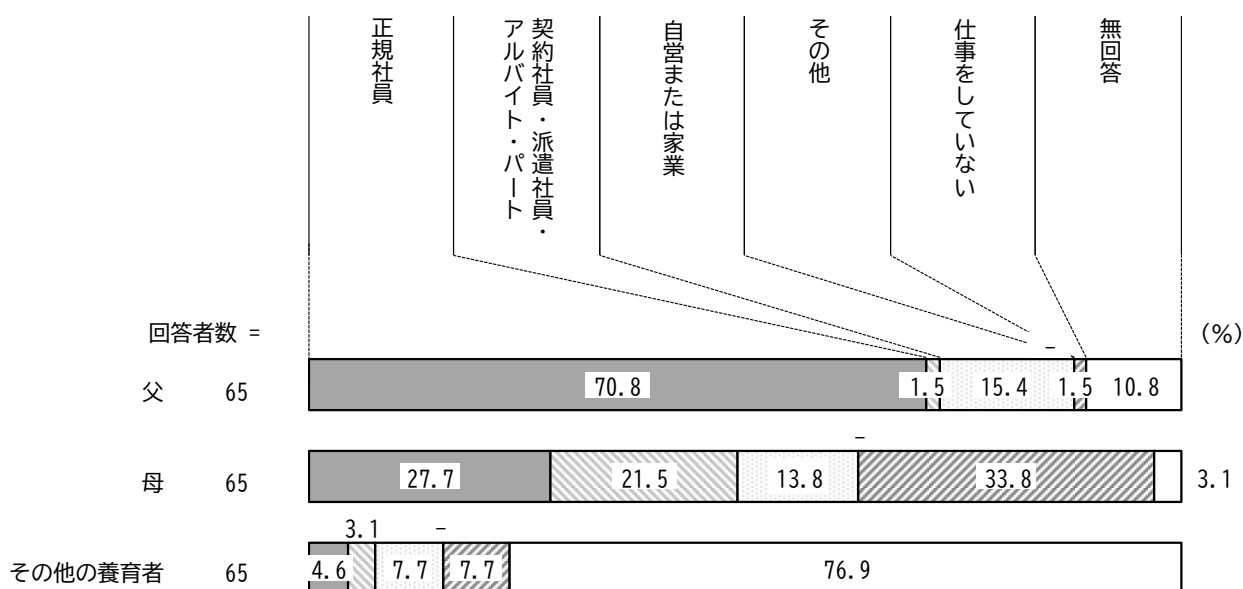


## 4. 生活を支援している方の仕事について

### (1) 支援者の就業状況

現在の就労状況は、父は「正規社員」が70.8%、母は「仕事をしていない」が33.8%と高くなっている。

<図表Ⅱ-5-1 現在の就業状況(全体)>

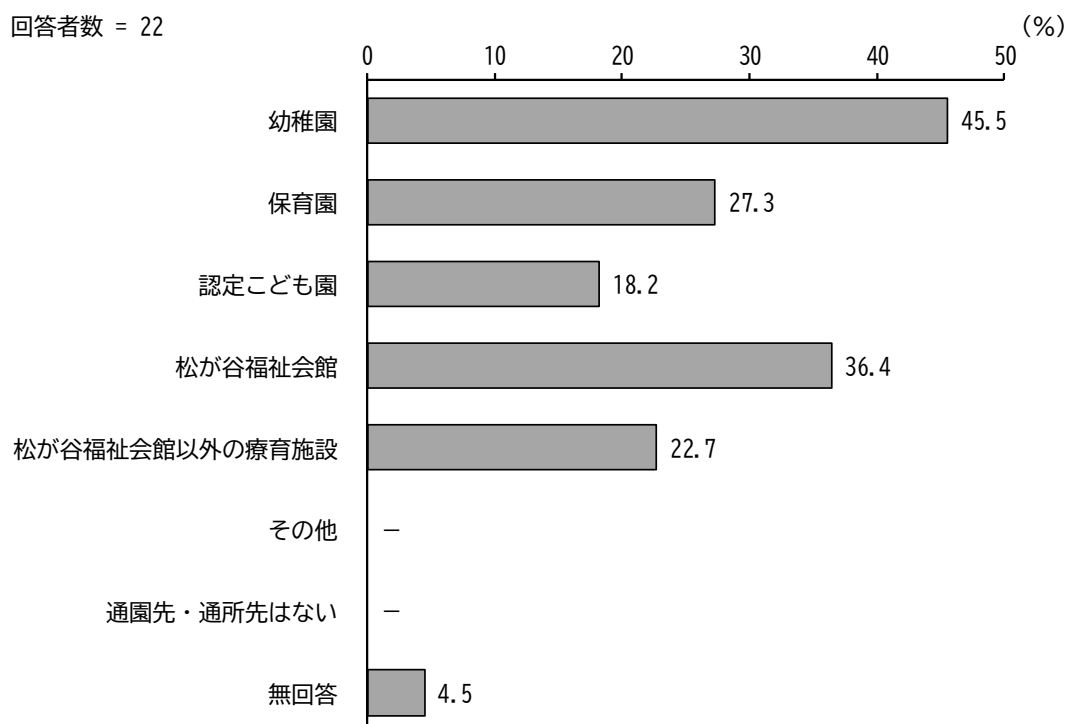


## 5. 療育・教育について

### (1) 日中の活動の場

未就学の方の日中の活動の場は、「幼稚園」が45.5%と最も高く、次いで「松が谷福祉会館」が36.4%、「保育園」が27.3%となっている。

<図表Ⅱ－6－1 日中の活動の場（未就学）>



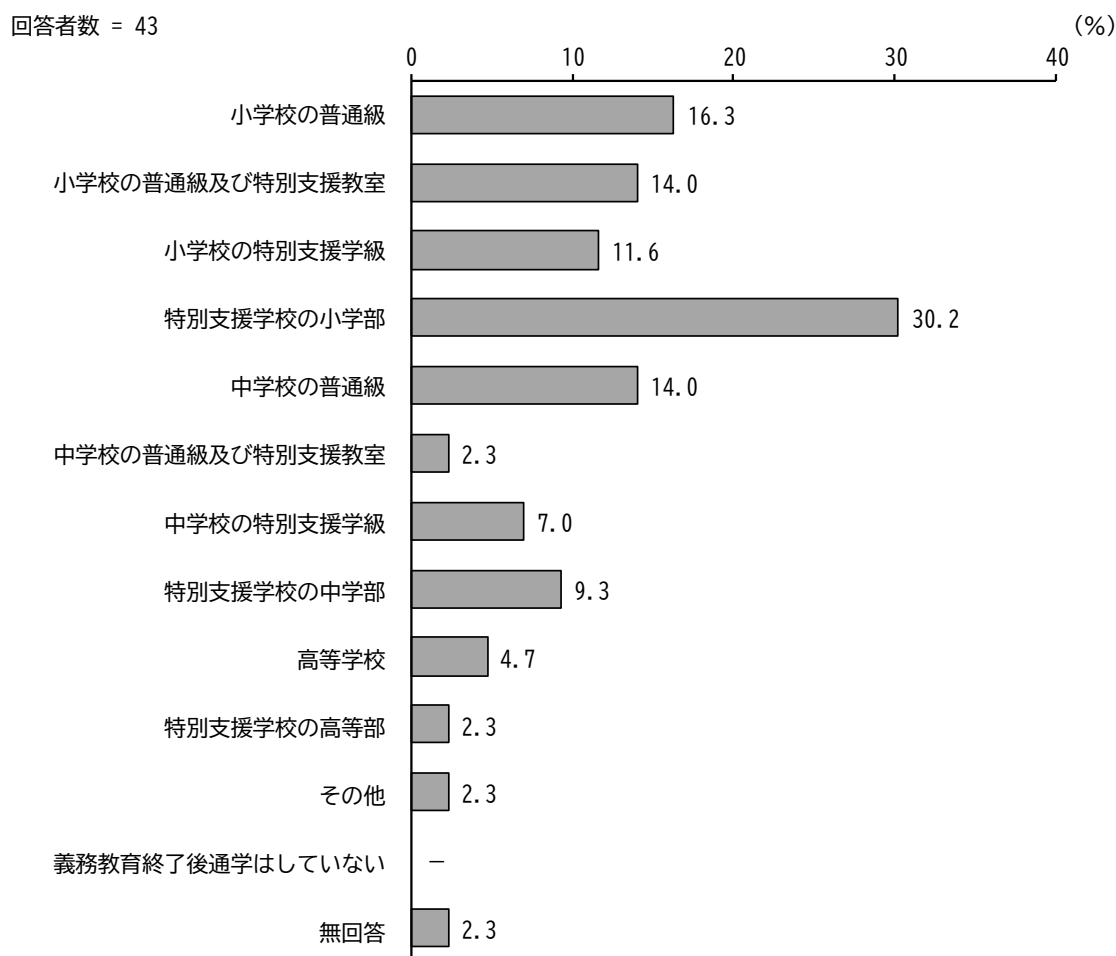
<図表Ⅱ－6－2 日中の活動の場（未就学）（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	幼稚園	保育園	認定こども園	松が谷福祉会館	松が谷福祉会館以外の療育施設	その他	通園先・通所先はない	無回答
全体	22	45.5	27.3	18.2	36.4	22.7	—	—	4.5
身体障害	4	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	—	—	—
知的障害	2	50.0	50.0	—	50.0	50.0	—	—	—
精神障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難病（特定疾病）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
発達障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手帳未取得	15	46.7	26.7	20.0	40.0	20.0	—	—	—

就学期以降の方の日中の活動の場は、「特別支援学校の小学部」が 30.2%と最も高く、次いで「小学校の普通級」が 16.3%、「小学校の普通級及び特別支援教室」、「中学校の普通級」が 14.0%となっている。

<図表Ⅱ－6－3 日中の活動の場（就学期以降）>



<図表Ⅱ－6－4 日中の活動の場（就学期以降）（障害別）>

(%)

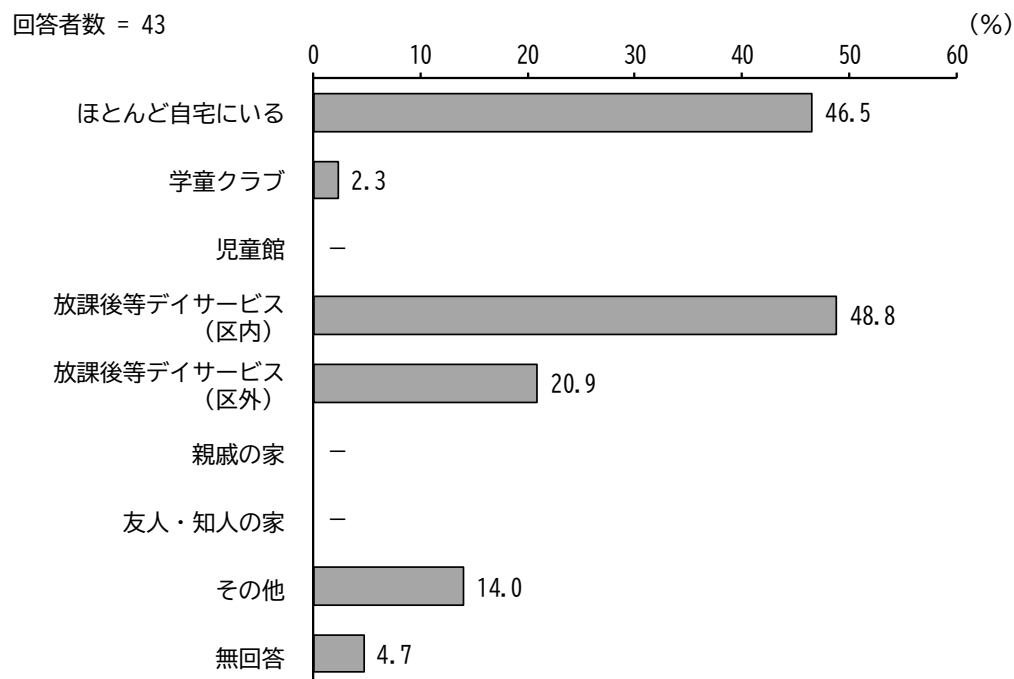
区分	回答者数 (件)	小学校の普通級	小学校の普通級及び特別支援教室	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	中学校の普通級	中学校の普通級及び特別支援教室	中学校の特別支援学級	特別支援学校の中学部	高等学校	特別支援学校の高等部	その他	義務教育終了後通学はしていない	無回答
全体	43	16.3	14.0	11.6	30.2	14.0	2.3	7.0	9.3	4.7	2.3	2.3	—	2.3
身体障害	9	—	—	—	66.7	11.1	11.1	—	11.1	—	—	—	—	—
知的障害	20	5.0	—	15.0	60.0	5.0	—	10.0	15.0	5.0	5.0	—	—	—
精神障害	2	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—
難病 (特定疾病)	3	—	—	33.3	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—
発達障害	11	—	—	18.2	54.5	9.1	—	18.2	—	—	9.1	9.1	—	—
手帳未取得	16	37.5	37.5	6.3	—	18.8	—	—	—	—	—	—	—	6.3

## (2) 放課後の過ごし方

放課後の過ごし方は、「放課後等デイサービス（区内）」が48.8%と最も高く、次いで「ほとんど自宅にいる」が46.5%、「放課後等デイサービス（区外）」が20.9%となっている。

障害別にみると、身体障害、発達障害で「ほとんど自宅にいる」がそれぞれ70.0%、60.0%、手帳未取得で「放課後等デイサービス（区内）」が62.5%と高くなっている。

<図表Ⅱ－7－1 放課後の過ごし方（全体）>



<図表Ⅱ－7－2 放課後の過ごし方（障害別）> (%)

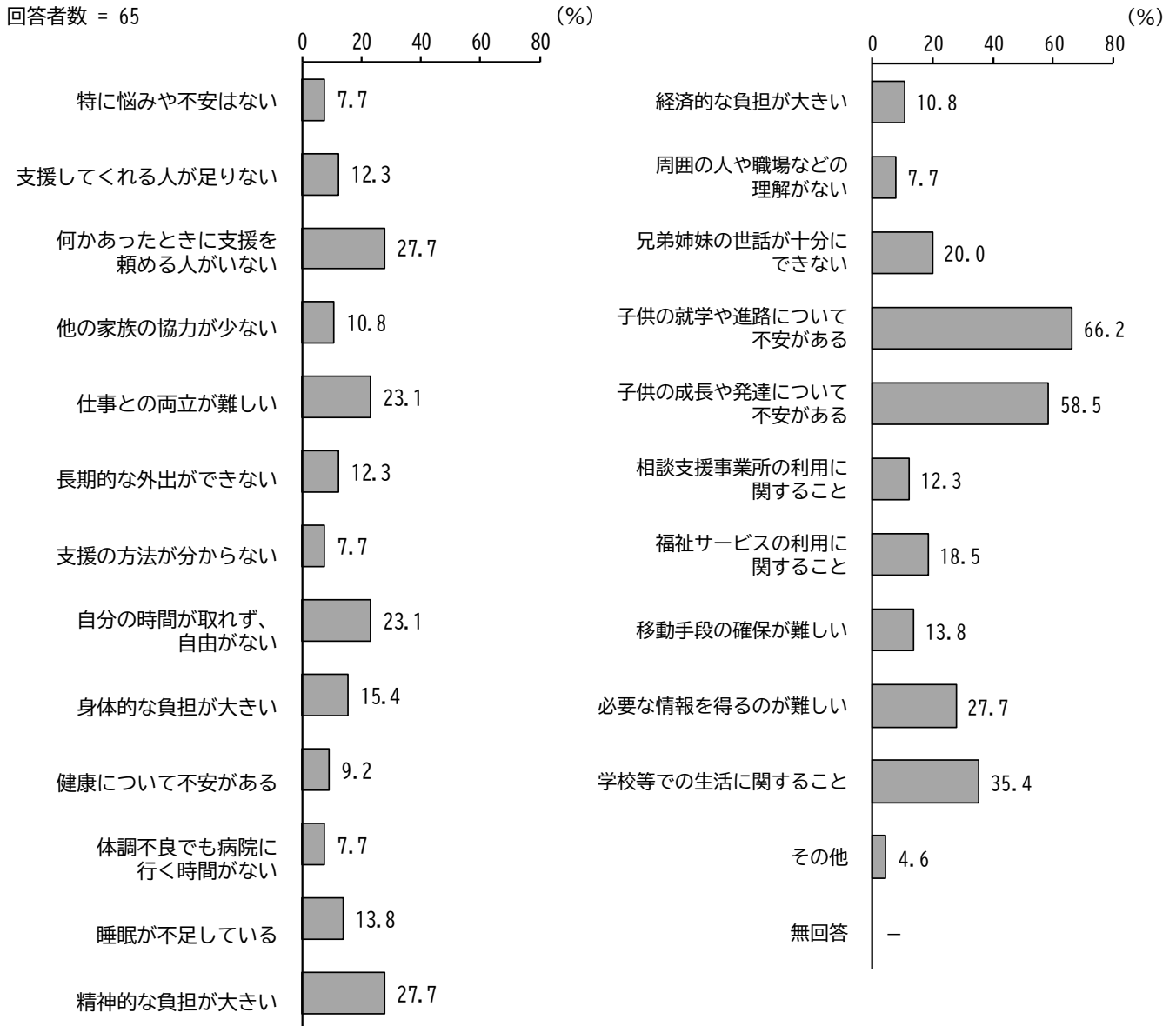
区分	回答者数(件)	ほとんど自宅にいる	学童クラブ	児童館	放課後等デイサービス(区内)	放課後等デイサービス(区外)	親戚の家	友人・知人の家	その他	無回答
全体	43	46.5	2.3	-	48.8	20.9	-	-	14.0	4.7
身体障害	10	70.0	-	-	20.0	30.0	-	-	-	-
知的障害	20	35.0	-	-	55.0	25.0	-	-	10.0	-
精神障害	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	3	66.7	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-
発達障害	10	60.0	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-
手帳未取得	16	37.5	6.3	-	62.5	25.0	-	-	25.0	12.5



### (3) 育児における悩みや不安

育児における悩みや不安があると答えた割合は、92.3%（全体から「特に悩みや不安はない」7.7%を除いたもの）となっている。具体的には、「子供の就学や進路について不安がある」が66.2%と最も高く、次いで「子供の成長や発達について不安がある」が58.5%、「学校等での生活に関すること」が35.4%となっている。

<図表Ⅱ－8－1 育児における悩みや不安（全体）>



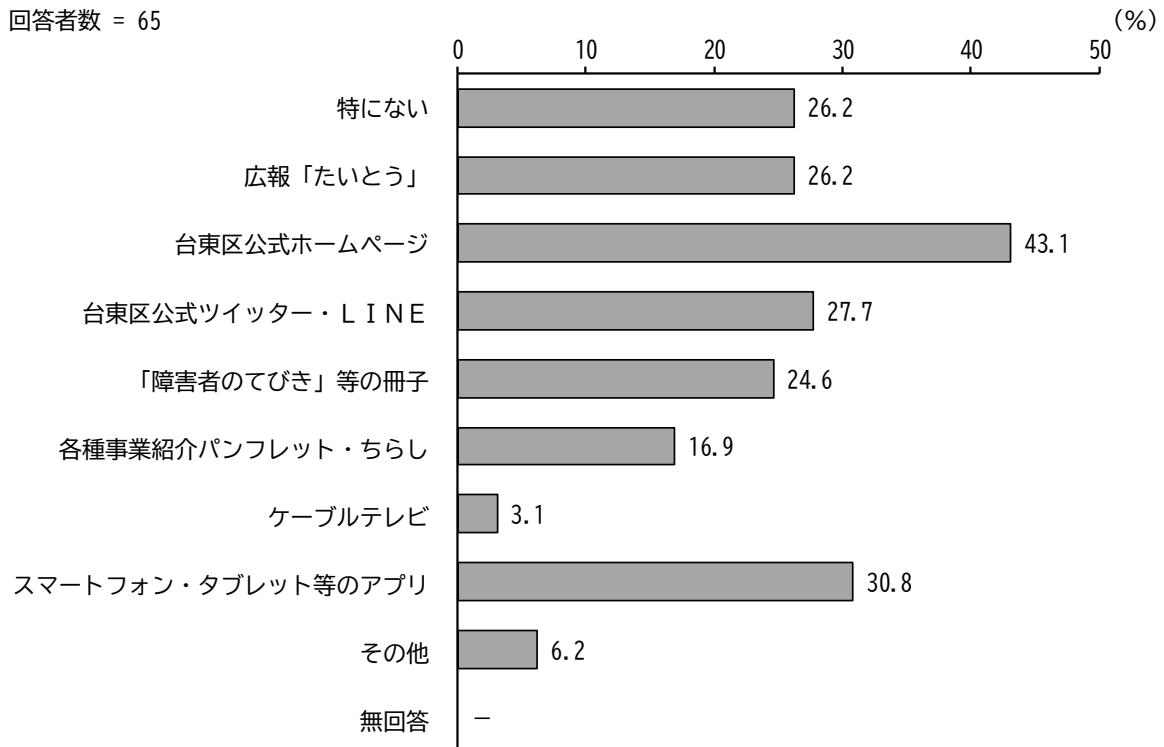
## 6. コミュニケーション・意思疎通について

### (1) 充実を希望する情報媒体

充実を希望する情報媒体は、「台東区公式ホームページ」が43.1%と最も高く、次いで「スマートフォン・タブレット等のアプリ」が30.8%、「台東区公式ツイッター・LINE」が27.7%となっている。

障害別にみると、身体障害で「『障害者のてびき』等の冊子」が61.5%、「各種事業紹介パンフレット・ちらし」が30.8%と高くなっている。また、発達障害で「台東区公式ツイッター・LINE」が45.5%、「スマートフォン・タブレット等のアプリ」が72.7%と高くなっている。

<図表Ⅱ-9-1 充実を希望する情報媒体（全体）>



<図表Ⅱ-9-2 充実を希望する情報媒体（障害別）>

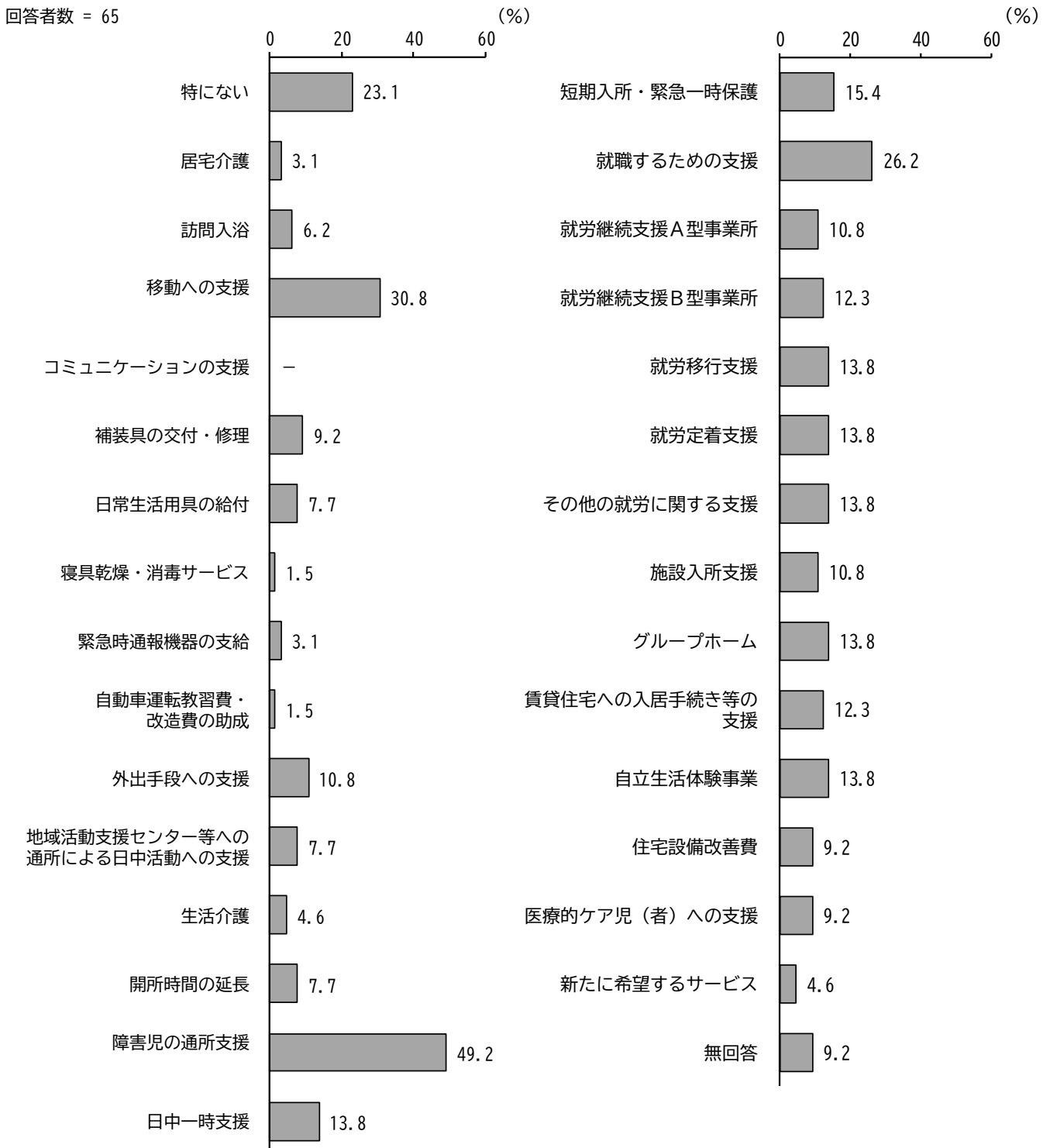
区分	回答者数 (件)	特にない	広報「たいとう」	台東区公式ホームページ	台東区公式ツイッター・LINE	「障害者のてびき」等の冊子	各種事業紹介パンフレット・ちらし	ケーブルテレビ	スマートフォン・タブレット等のアプリ	その他	無回答
全体	65	26.2	26.2	43.1	27.7	24.6	16.9	3.1	30.8	6.2	-
身体障害	13	7.7	30.8	53.8	23.1	61.5	30.8	15.4	38.5	-	-
知的障害	22	18.2	22.7	45.5	13.6	40.9	13.6	4.5	36.4	9.1	-
精神障害	2	-	-	50.0	100.0	50.0	-	50.0	100.0	-	-
難病（特定疾病）	3	-	33.3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-	-
発達障害	11	-	27.3	54.5	45.5	36.4	-	9.1	72.7	-	-
手帳未取得	31	35.5	29.0	38.7	29.0	9.7	9.7	-	22.6	6.5	-

## 7. 障害福祉サービスについて

### (1) 今後、充実を希望するサービス

今後、充実を希望するサービスがある割合は、67.7%（全体から「特にない」23.1%と「無回答」9.2%を除いたもの）となっている。具体的には、「障害児の通所支援」が49.2%と最も高く、次いで「移動への支援」が30.8%、「就職するための支援」が26.2%と高くなっている。

<図表Ⅱ-10-1 今後、充実を希望するサービス（全体）>



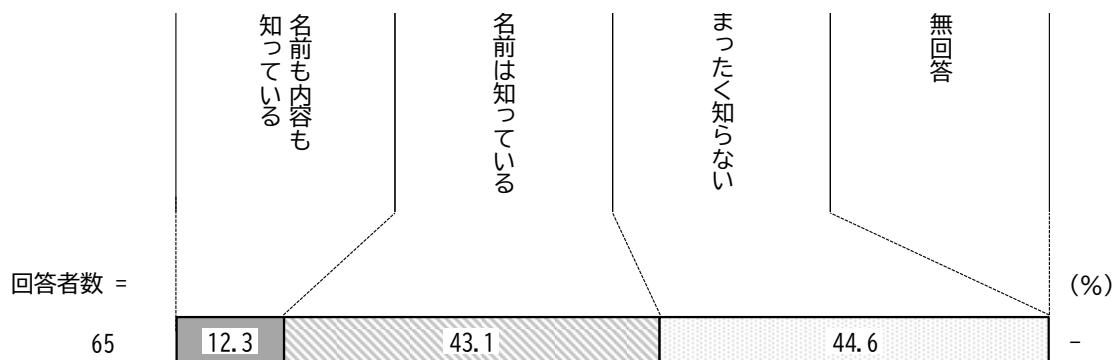
## 8. 障害者の権利擁護、虐待、差別について

### (1) 障害者虐待防止法の認知度

障害者虐待防止法の認知度は、「名前も内容も知っている」12.3%と「名前は知っている」43.1%をあわせた『知っている』が55.4%となっている。

障害別にみると、発達障害で「名前は知っている」が81.8%と高くなっている。

<図表Ⅱ-11-1 障害者虐待防止法の認知度（全体）>



<図表Ⅱ-11-2 障害者虐待防止法の認知度（障害別）>

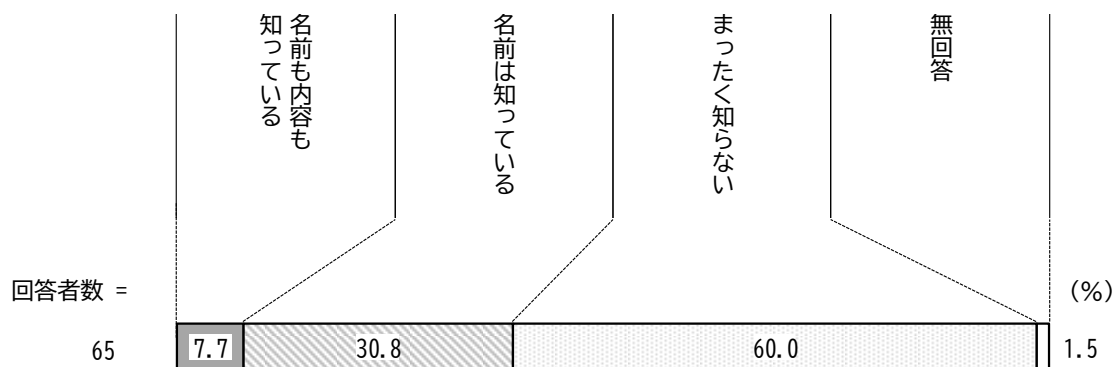
区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	65	12.3	43.1	44.6	-
身体障害	13	7.7	38.5	53.8	-
知的障害	22	9.1	54.5	36.4	-
精神障害	2	-	50.0	50.0	-
難病（特定疾病）	3	-	66.7	33.3	-
発達障害	11	-	81.8	18.2	-
手帳未取得	31	19.4	45.2	35.5	-

## (2) 障害者差別解消法の認知度

障害者差別解消法の認知度は、「名前も内容も知っている」7.7%と「名前は知っている」30.8%をあわせた『知っている』が38.5%となっている。

障害別にみると、知的障害と発達障害で『知っている』が54.6%と高くなっている。

<図表Ⅱ-12-1 障害者差別解消法の認知度（全体）>



<図表Ⅱ-12-2 障害者差別解消法の認知度（障害別）>

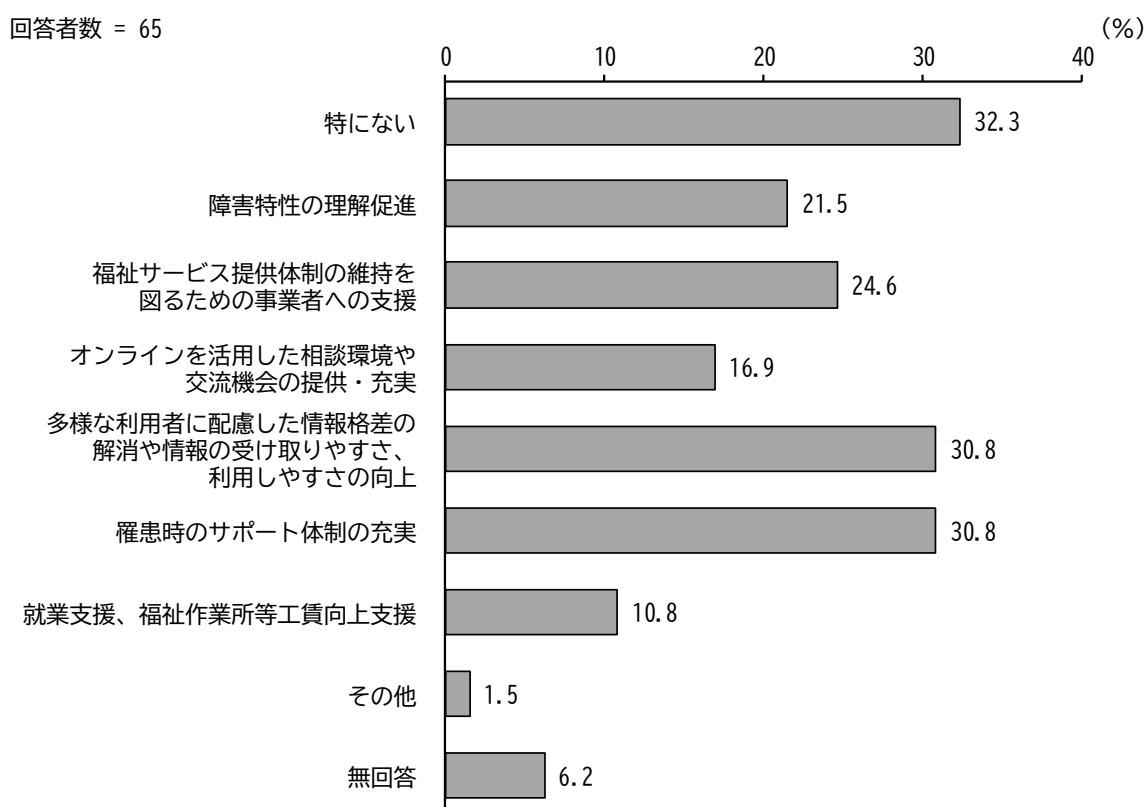
区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	65	7.7	30.8	60.0	1.5
身体障害	13	23.1	30.8	46.2	-
知的障害	22	18.2	36.4	45.5	-
精神障害	2	50.0	50.0	-	-
難病（特定疾病）	3	33.3	33.3	33.3	-
発達障害	11	9.1	45.5	36.4	9.1
手帳未取得	31	3.2	32.3	64.5	-

## 9. 新型コロナウイルス感染症について

### (1) 新型コロナウイルス感染症に関し行政に求めるもの

新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるものは、「多様な利用者に配慮した情報格差の解消や情報の受け取りやすさ、利用しやすさの向上」、「罹患時のサポート体制の充実」が30.8%と高くなっている。

<図表Ⅱ-13-1 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの(全体)>



## 10. 台東区への要望等について

### (1) 障害児が地域で安心して暮らすために重要と思う施策

障害児が地域で安心して暮らすために重要と思う施策は、「相談支援体制の充実」が53.8%と最も高く、次いで「障害児の療育の充実」が52.3%、「障害に対する理解の促進」が50.8%となっている。

<図表Ⅱ-14-1 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（全体）>

